

2018 年 IEEE 関西支部 総会資料

2018 年 2 月 28 日
IEEE 関西支部

総会資料目次

I.	2018年関西支部役員・理事	1
II.	2018年 KANSAI CHAPTER 役員	5
III.	2018年関西支部 STUDENT BRANCH 役員	7
IV.	2017年 活動報告 および 2018年活動計画	9
V.	関西支部会員数	41
VI.	2017年 会計報告	43
VII.	2018年 予算	45
VIII.	受賞者	47
	参考情報	48

2018 年 IEEE 関西支部総会 プログラム

1. 日時:2018 年 2 月 28 日(水) 13 時 30 分～17 時 00 分
2. 場所:関西大学 梅田キャンパス 8 階 大ホール
〒530-0014 大阪市北区鶴野町 1 番 5 号
3. 総会スケジュール
 1. 支部長挨拶
 2. 役員・理事紹介
 3. 2017 年活動報告および 2018 年活動計画
 4. 2017 年会計報告および 2018 年予算
 5. Chapter 役員および活動紹介
<休憩>
 6. IEEE 関西支部 Young Professionals 賞授賞式
 7. IEEE 関西支部学生研究奨励賞授賞式
 8. IEEE 関西支部メダル授賞式
 9. IEEE 関西支部新 Fellow 紹介及び研究紹介
 10. 閉会の挨拶

I. 2018年関西支部役員・理事

1. 役員 (Section Officers)

Chair:	山本 幹	(関西大学)
Vice Chair:	水落 隆司	(三菱電機)
Secretary:	武田 保孝	(三菱電機)
Treasurer:	岡 誠次	(三菱電機)

2. 理事 (Committee Chairs)

MDC Chair:	福井 正博	(立命館大学)
NC Chair:	石渕 久生	(大阪府立大学)
SAC Chair:	川村 新	(大阪大学)
TPC Chair:	田邊 信二	(三菱電機)
AC Chair:	土屋 達弘	(大阪大学)
COC Chair:	梶川 嘉延	(関西大学)

3. 理事 (Affinity Group Chairs)

LMAG Chair:	木戸出 正継	(元奈良先端科学技術大学院大学)
WIE AG Chair:	上田 悦子	(大阪工業大学)
YP AG Chair:	和泉 慎太郎	(神戸大学)

4. 理事 (Past Officers)

Past Chair:	山内 寛紀	(立命館大学)
-------------	-------	---------

5. 理事 (Past Committee Chair)

Past NC Chair:	杉江 俊治	(京都大学)
----------------	-------	--------

6. 理事 (2019年役員候補)

梅田 信雄	(関西電力)
新木 依子	(関西電力)
小野 俊二	(関西電力)

7. Committee Officers

a. Membership Development Committee

Chair:	福井 正博	(立命館大学)
Secretary:	谷口 一徹	(大阪大学)
Member:	勅使川原 正樹	(オムロン)
	中村 孝夫	(住友電気工業)
	勝山 豊	(大阪府立大学)
	浅井 明	(パナソニック)
	村松 純	(日本電信電話)
	満仲 健	(シャープ)
	佐々木 鉄雄	(関西電力)
	貝原 俊也	(神戸大学)
	太田 快人	(京都大学)
	小林 浩	(三菱電機)
	中島 重義	(大阪市立大学)
	木村 啓明	(ローム)
	尾原 郁夫	(京セラ)
	加藤 貴敏	(村田製作所)
	柏 卓夫	(古野電気)
	礪川 悌次郎	(兵庫県立大学)

b. Nominations Committee

Chair:	石渕 久夫	(大阪府立大学)
Member:	浅田 稔	(大阪大学)
	大村 泰久	(関西大学)
	杉浦 博明	(三菱電機)

c. Student Activities Committee

Chair:	川村 新	(大阪大学)
Vice Chair	福水 洋平	(立命館大学)
Member:	松田 崇弘	(大阪大学)
	石原 亨	(京都大学)
	和泉 慎太郎	(神戸大学)
	間 博人	(同志社大学)
	市川 晃平	(奈良先端科学技術大学院大学)
	礪川 悌次郎	(兵庫県立大学)
	平田 孝志	(関西大学)
	奥 宏史	(大阪工業大学)
	澤田 祐一	(京都工芸繊維大学)
(Student Representative)	森田 俊平	(京都大学)

d. Technical Program Committee

Chair:	田邊 信二	(三菱電機)
Vice Chair:	西浦 敬信	(立命館大学)
Secretary:	東坂 範雄	(三菱電機)

e. Awards Committee

Chair:	土屋 達弘	(大阪大学)
Member:	飯田 元	(奈良先端科学技術大学院大学)
	太田 能	(神戸大学)
	太田 正哉	(大阪府立大学)
	大橋 正治	(大阪府立大学)
	黒江 康明	(京都工芸繊維大学)
	杉原 浩平	(三菱電機)
	杉山 久佳	(大阪市立大学)
	中村 匡秀	(神戸大学)
	野口 拓	(立命館大学)
	村田 英一	(京都大学)
	山田 晃久	(モリタホールディングス)
	杉原 英治	(大阪大学)
	増淵 泉	(神戸大学)
	和田 友孝	(関西大学)

f. Chapter Operations Committee

Chair:	梶川 嘉延	(関西大学)
Secretary:	西浦 敬信	(立命館大学)
Member:	中村 孝	(ローム)
	永田 真	(神戸大学)
	尾上 孝雄	(大阪大学)
	前川 泰之	(大阪電気通信大学)
	東野 武史	(奈良先端科学技術大学院大学)
	山下 茂	(立命館大学)
	柏 卓夫	(古野電気)
	裏 升吾	(京都工芸繊維大学)
	河原 達也	(京都大学)
	坂本 直史	(名古屋大学)
	太田 快人	(京都大学)
	森實 俊充	(大阪工業大学)
	松井 利之	(大阪府立大学)

g. Life Members Affinity Group

Chair:	木戸出 正継	(元奈良先端大学院大学)
Vice Chair:	中村 行宏	(元京都大学、元立命館大学)
Vice Chair:	小林 正明	(元三菱電機)
Secretary:	森田 修三	(元富士通)

h. WIE (Women in Engineering) Affinity Group

Chair:	上田 悦子	(大阪工業大学)
Vice Chair	崔 恩瀨	(奈良先端科学技術大学院大学)
Vice Chair	松川 真美	(同志社大学)
Secretary	熊木 武志	(立命館大学)
Treasurer	辻川 美沙貴	(パナソニック)

i. YP (Young Professionals) Affinity Group

Chair:	和泉 慎太郎	(神戸大学)
Vice Chair	伊原 彰紀	(奈良先端科学技術大学院大学)
Secretary	佐藤 伸吾	(関西大学)
Treasurer	伊藤 信貴	(日本電信電話)

II. 2018年 Kansai Chapter 役員

1. EDS (Electron Devices Society) Kansai Chapter

Chair:	中村 孝	(ローム)
Vice Chair:	吉本 昌広	(京都工繊大)
Secretary:	西原 道哲	(立命館大学)
Treasurer:	松田 時宜	(龍谷大学)

2. SSCS (Solid State Circuits Society) Kansai Chapter

Chair:	永田 真	(神戸大学)
Vice Chair:	中島 雅逸	(ソシオネクスト)
Secretary:	三浦 典之	(神戸大学)
Treasurer:	新居 浩二	(ルネサス エレクトロニクス)

3. CASS (Circuits and Systems Society) Kansai Chapter

Chair:	尾上 孝雄	(大阪大学)
Vice Chair:	小西 啓治	(大阪府立大学)
Secretary:	鳥飼 弘幸	(京都産業大学)
Treasurer:	藤田 玄	(大阪電気通信大学)

4. APS (Antennas and Propagation Society) Kansai Joint Chapter

Chair:	前川 泰之	(大阪電気通信大学)
Vice Chair:	出口 博之	(同志社大学)
Secretary:	阪本 卓也	(兵庫県立大学)
Treasurer:	紀平 一成	(三菱電機)

5. COMS (Communications Society) Kansai Chapter

Chair:	東野 武史	(奈良先端科学技術大学院大学)
Vice Chair:	熊本 和夫	(大阪工業大学)
Secretary:	林 海	(大阪府立大学)
Treasurer:	和田 友孝	(関西大学)

6. CS (Computer Society) Kansai Chapter

Chair:	山下 茂	(立命館大学)
Vice Chair:	松島 秀樹	(パナソニック)
Vice Chair:	廣本 正之	(京都大学)
Secretary:	吉岡 康介	(パナソニック)
Treasurer:	田中 輝明	(三菱電機)

7. MTTS (Microwave Theory and Techniques Society) Kansai Chapter

Chair:	柏 卓夫	(古野電気)
Vice Chair:	真田 篤志	(大阪大学)
Secretary:	井上 晃	(三菱電機)
Secretary:	上田 哲也	(京都工芸繊維大学)
Treasurer:	三谷 友彦	(京都大学)

8. PHOS (Photonics Society (formerly LEOS)) Kansai Chapter

Chair:	裏 升吾	(京都工芸繊維大学)
Vice Chair:	加藤 友章	(日本電気)
Secretary:	村田 博司	(大阪大学)
Treasurer:	大和屋 武	(三菱電機)

9. SPS (Signal Processing Society) Kansai Chapter

Chair:	河原 達也	(京都大学)
Vice Chair:	中谷 智広	(日本電信電話)
Secretary:	秋田 祐哉	(京都大学)
Treasurer:	武田 龍	(大阪大学)

10. CES (Consumer Electronics Society) West Japan Joint Chapter

Chair:	坂本 直史	(名古屋大学)
Vice Chair:	西村 涼太	(徳島大学)
Vice Chair:	Thi Thi Zin	(宮崎大学)
Secretary/Treasurer:	長谷 智弘	(龍谷大学)

11. CSS (Control Systems Society) Kansai Chapter

Chair:	太田 快人	(京都大学)
Vice Chair:	鷹羽 浄嗣	(立命館大学)
Secretary:	和田 孝之	(大阪大学)
Treasurer:	丸田 一郎	(京都大学)

12. IES (Industrial Electronics Society) Japan Joint Chapter

Chair:	森實 俊充	(大阪工業大学)
Vice Chair:	笠 展幸	(岡山理科大学)
Secretary:	柿ヶ野 浩明	(立命館大学)
Treasurer:	國弘 和彦	(シャープ)

13. MAG (Magnetic Society) Kansai/Shikoku Joint Chapter

Chair:	松井 利之	(大阪府立大学)
Vice Chair:	岡本 好弘	(愛媛大学)
Secretary:	中川 貴	(大阪大学)
Treasurer:	戸川 欣彦	(大阪府立大学)

III. 2018 年関西支部 Student Branch 役員

1. 大阪大学 (<http://www-ise2.ist.osaka-u.ac.jp/ieee/>)

Counselor:	尾上 孝雄	(大阪大学)
Mentor:	藤田 玄	(大阪電気通信大学 准教授)
Chair:	岩瀬 大輝	大阪大学大学院 情報科学研究科
Vice Chair:	増山 昌樹	大阪大学大学院 情報科学研究科
Treasurer:	井上 佑貴	大阪大学大学院 情報科学研究科
Secretary:	坂井 高志	大阪大学大学院 情報科学研究科

2. 京都大学 (<http://ieee.kuee.kyoto-u.ac.jp/>)

Counselor:	石原 亨	(京都大学 情報学研究科)
Mentor:	近村 啓史	(株式会社フィックスターズ)
Chair:	森田 俊平	京都大学 情報学研究科
Vice Chair:	村垣 政志	京都大学 情報学研究科
Treasurer:	新 瑞徳	京都大学 情報学研究科
Secretary:	森本 和志	京都大学 情報学研究科

3. [立命館大学 \(http://www.ieee.se.ritsumei.ac.jp/J/main.html\)](http://www.ieee.se.ritsumei.ac.jp/J/main.html)

Counselor:	福水 洋平	(立命館大学)
Chair:	村岸 佑哉	立命館大学 理工学研究科
Vice Chair:	杉山 幸平	立命館大学 理工学研究科
Treasurer:	前川 兎太郎	立命館大学 理工学研究科
Secretary:	横山 智之	立命館大学 理工学研究科

4. [奈良先端科学技術大学院大学 \(http://ieee-sb-naist.github.io/\)](http://ieee-sb-naist.github.io/)

Counselor:	飯田 元	(奈良先端科学技術大学院大学)
Mentor:	井上 美智子	(奈良先端科学技術大学院大学)
Chair:	上村 恭平	奈良先端大 情報科学研究科
Vice Chair:	中才 恵太郎	奈良先端大 情報科学研究科
Treasurer:	池田 祥平	奈良先端大 情報科学研究科
Secretary:	宮村 純真	奈良先端大 情報科学研究科

5. [兵庫県立大学 \(http://www.eng.u-hyogo.ac.jp/IEEEStudent/index.html\)](http://www.eng.u-hyogo.ac.jp/IEEEStudent/index.html)

Counselor:	上浦 尚武	(兵庫県立大学)
Mentor:	中嶋 宏	(オムロン)
Chair:	安木 麻倫	兵庫県立大学
Vice Chair:	盛田 健人	兵庫県立大学
Treasurer:	盛田 健人	兵庫県立大学
Secretary:	田下 徳起	兵庫県立大学

6. [関西大学 \(http://www2.kansai-u.ac.jp/ieee_sb/\)](http://www2.kansai-u.ac.jp/ieee_sb/)

Counselor:	大村 泰久	(関西大学)
Mentor:	辻川 剛範	(日本電気)
Chair:	藤井 孝匡	関西大学大学院 画像処理工学研究室
Vice Chair:	中嶋 真吾	関西大学大学院 情報ネットワーク研究室
Treasurer:	森田 亘	関西大学大学院 情報通信工学研究室
Secretary:	東口 豊	関西大学大学院 音情報システム研究室

7. [同志社大学 \(https://ccilab.doshisha.ac.jp/ieee/\)](https://ccilab.doshisha.ac.jp/ieee/)

Counselor:	高橋 康人	(同志社大学)
Chair:	岡 直孝	同志社大学大学院 理工学研究科
Vice Chair:	友利 宥也	同志社大学大学院 理工学研究科
Treasurer:	近藤 修平	同志社大学大学院 理工学研究科
Secretary:	佐々木 捷人	同志社大学大学院 理工学研究科

IV. 2017年 活動報告 および 2018年活動計画

1. 総括

【2017年活動報告】

関西支部では、8月7日～8日の日程で兵庫県立大学神戸情報科学キャンパスにて開催された HISTELCON 2017 にて準備、運営を支援した。過去のマイルストーン記念展示も行われ盛況であった、今後のマイルストーン認定活性化につなげていく。

LMAG、WIE、YPの各 Affinity Group の活動も活性化されるとともに、8月にシドニーにおいて開催された ANZSCON2017 への学生派遣、SBによる英語プレゼン大会、SBとLMAG 共同でのブレインストーミング大会等、若手を中心とする活動の拡大、充実に努めた。また、名古屋 MAW への参加支援を行い、他支部との交流に勤めた。

【2018年活動計画】

2018年は、引き続き Chapter 活動、Student Branch 活動、Affinity Group 活動にも積極的な支援を行い、活動の継続を図る。

2. 総会

【2017年活動報告】

2017年2月22日(水)に「マイドームおおさか」において、2017年総会を開催した。各 Committee、Chapter、Affinity Group から、2016年の活動実績、2017年の活動計画を報告。関西支部より2016年活動の総括および2016年決算、2017年予算を報告し承認された。

総会中 Young Professional 賞授賞式、学生研究奨励賞授賞式、関西支部メダル授与式、新フェロー紹介を実施した。参加者は53名。



学生研究奨励賞受賞者



関西支部メダル受賞者

【2018年予定】

2018年は2月28日(水)13:30～17:00の予定で、定例総会を実施する。

3. 理事会

【2017年活動報告】

第1回理事会 1月31日 関西大学梅田キャンパス 出席者:15名

・2017年活動計画 ・2017年各 Committee 活動計画 ・2017年予算(案)

第2回理事会 2月22日 マイドームおおさか 出席者:12名

・2017年総会について ・MAWについて

第3回理事会 6月5日 関西大学梅田キャンパス 出席者:16名

・Vice Chair 交代の承認 ・2017年総会実施報告 ・R10 Meeting 報告

・第1回 JC 理事会報告 ・JC COC ミーティング報告 ・HISTELCON2017 準備状況

・2017年 YP 賞、学生研究奨励賞募集について ・会計状況報告

・IEEE 関西支部 第100回技術講演会

第4回理事会 9月11日 関西大学梅田キャンパス 出席者:12名

・第2回 JC 理事会報告 ・HISTELCON2017 報告 ・Section Congress 報告

・会計状況報告 ・MAW 名古屋参加支援について ・第100回技術講演会準備状況

・2017年 会計中間報告 ・次期役員選出について

第5回理事会 12月21日 関西大学梅田キャンパス (予定)

・2018年理事会体制について ・2017年 YP 賞、学生研究奨励賞承認

・2017年活動報告/2018年活動計画 ・2017年会計報告/2018年予算案

・第3回 JC 理事会報告 ・2018年総会について

【2018年活動計画】

総会 2018年2月28日

理事会 2018年は役員改選の年であるため、年間6回の理事会を計画する。

4. 関西支部主催講演会

【2017年活動報告】

TPC および LMAG、WIE、YP との共同企画により、年間5回の見学会・技術講演会を開催した。12月の技術講演会は第100回の開催となるため、記念大会として規模を拡大して実施。また、第100回技術講演にあわせて、各 AG の活動紹介をパネル展示として実施した。

【2018年活動計画】

2018年も年間5回程度の講演会を開催し、支部の活性化を図る。

5. History of Electrotechnology Conference 2017 [HISTELCON]

8月7日～8日に兵庫県立大学で Histelcon を開催、関西支部より準備、運営に参加した。開催期間中には近畿地方に台風が上陸したが大きな問題もなく開催された、参加者 120 名、企業展示 23 件。過去のマイルストーンの記念展示も行われ盛況であった、今後のマイルストーン認定活性化につなげていく。開催期間中に Engineering and Technology History Wiki の作成者より更新の依頼あり、今後支部事務局にて更新作業を行う。

6. Region 10 Meeting

【2017 年活動報告】

2017年3月4日(土)～5日(日)の日程で千葉において開催された Region 10 Meeting に、関西支部より武田 Secretary が参加、R10 の活動報告と活動計画などの情報入手と交換に努めた。

【2018 年活動計画】

関西支部より例年通り参加し、R10 の活動報告と活動計画などの情報入手と交換に努める。

7. Section Congress

【2017 年活動報告】

2017年8月11日(金)～13日(日)にシドニーにおいて開催された Section Congress に関西支部から山本 Chair が参加、加えて2名の学生が参加し、各国の参加者と情報共有及びネットワークの構築を行った。学生2名は Section Congress に先立つ ANZSCON2017 にも参加、海外の学生との交流を行った。

【2018 年活動計画】

2018年も、活性化を継続するため、IEEE Region 10 Student/YP/WIE/LMAG Congress 2018 が開催される場合には、学生2名の参加を予定する。

8. 協賛会議

【2017 年活動報告】

- ・第4回電子デバイスフォーラム京都
主催:(一社)日本電子デバイス産業協会(NEDIA)
日時:2017年11月1日(水)10:00～11月2日(水)17:00
場所:京都リサーチパーク(KRP)
- ・システム制御情報学会セミナー2017 人間拡張工学の最先端
主催:(一社)システム制御情報学会
日時:2017年11月9日(木)10:00～17:00
場所:京都テルサ
- ・平成29年 電気関係学会関西連合大会
主催:電気学会 関西支部
電子情報通信学会 関西支部
映像情報メディア学会 関西支部
電気設備学会 関西支部
日時:2017年11月25日(土)～11月26日(日)
場所:近畿大学大阪キャンパス

9. 情報発信

【2017 年活動報告】

関西支部 Web ページ

下記ホームページで、技術講演会の案内等情報発信した。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/>

電子メールの利用

総会、技術講演会、協賛会議、Fellow 推薦等の案内を関西支部ホームページへの掲載とあわせてメーリングリストの活用により、広く公告し情報発信に力を入れた。

【2018 年活動計画】

関西支部 Web ページ

関西支部のホームページで、各種情報を発信して、会員メリットの向上に努める。

Newsletter もタイムリーに発信をしていく。

電子メールの利用

総会、技術講演会、協賛会議、Fellow 推薦等の案内を関西支部ホームページへの掲載とあわせてメーリングリストの活用により、広く公告し情報発信に力を入れる。

各 Committee/Affinity Group からの報告

a. Membership Development Committee

【2017 年活動報告】

2017 年は、従来の MDC と SAC に加え YP も交えて、2 回の MDC&SAC&YP Joint Workshop を開催した。第 1 回は 6 月 1 日(木)に、第 2 回を 11 月 29 日(水)にそれぞれ新大阪で開催した。MDC、SAC、YP に参加している委員の組織を通して、IEEE 活動の利点を広く周知し、新卒者の学生会員から正会員への移行をスムーズに行わせるとともに、正会員からシニアへの移行を推進した。また、SAC や YP と連携し、大学院生を中心とした学生会員の増加に力を入れた。

2017 年 11 月 27 日現在、会員数は 2,178 名となった。会員数の減少を食い止めるためには Renew のし忘れを防ぐことが重要な課題であるため、Renew 時期に適宜その旨のメールを配信した。また、シニアメンバーへのアップグレードを推進することを活動の中心としてアップグレードのためのスキームを構築し、そのサポートを行っている。その結果、2017 年の昇格者が 9 名となった。

【2018 年活動計画】

2018 年は、本年と同様の方針で会員増に向けた活動を行う。特に、MDC&SAC に委員を出していない会員数が多い組織に声をかけ、新たに委員を増やすことで会員数の増加を狙う。

- MDC/SAC/YP Joint Workshop 開催
 - 第 1 回:5 月頃、第 2 回:11 月頃
- シニアメンバーへのアップグレードサポート
- IEEE のポスターやパンフレットなどを学会などで適宜配布して入会を呼びかける
- Renew 促進のメールを送信して Renew 忘れによる会員減を防ぐ

b. Nominations Committee

【2017 年活動報告】

2017 年 3 月 1 日締め切りの 2018 年 Fellow Nomination に際し、関西支部から数名の Fellow 推薦を行なった。その結果、3 名の Fellow 昇格となった。

【2018 年活動計画】

2018 年は、2018 年 3 月 1 日締め切りの 2019 年 Fellow Nomination に関して、関西支部内の現 Fellow に対し新 Fellow の推薦を依頼するとともに、現 Senior に対しても Nominee となることを勧める。

c. Student Activities Committee

【2017 年活動報告】

SAC では、昨年に引き続き、学生会員の増強、学生会員の活動支援、等の活動を行った。

- (1) 既存 7 大学(大阪大学、京都大学、立命館大学、奈良先端科学技術大学院大学、兵庫県

立大学、関西大学、同志社大学)の Student Branch (SB)を中心に、学生会員の増強、学生会員の活動支援、対外活動、SB 間の情報交換の促進、等の活動を行った。

- (2) MDC と SAC、YP と合同で Workshop を開催(6 月, 11 月)し、連携して会員の増強、YP 会員、女性会員を含めた活動支援、等の活動を行った。
- (3) 各 SB の Chair を集め Student Branch Chair Meeting を開催(5 月 28 日)。前期の活動状況や今後の活動計画について議論を行うとともに、互いに交流を深めた。
- (4) 2016 年に新たな活動として開始した SB 研究交流会を、2017 年も引き続き 7 月 9 日に京都大学において約 30 名の参加で実施した。招待講演に加え、各 SB から研究発表が行われ、その後、交流会を実施した。
- (5) SB 全体のイベントとして、立命館大学 English Presentation Competition を 10 月 20 日に実施した。優秀発表者に IEEE 関西支部 SAC から表彰状を授与した。また、関西支部からの補助を受け、懇親会を実施した。
- (6) 新たな試みとして、SB と LMAG との共同によりブレインストーミングコンテストを 9 月 6 日に同志社大学において実施した。
- (7) AC と連携して IEEE 関西支部学生研究奨励賞を企画し、審査を行った。詳細は [11-e. Award Committee](#) 報告の項を参照のこと。
- (8) 12 月 16 日に関西大学梅田キャンパスにおいて、第 100 回記念技術講演会に合わせて各 SB の活動状況の紹介を実施した。

【2018 年活動計画】

(1) Student Branch(SB)の設立

昨年に引き続き、学生会員の勧誘を進め、SB の設立に向け努力を継続する。既設の大阪大学、立命館大学、京都大学、奈良先端科学技術大学院大学、兵庫県立大学、関西大学、同志社大学各 Branch からの支援で、その他の大学、高専を対象に新 SB の設立を目指す。

(2) 学生会員活動の活発化

学生を対象とした講演会、見学会、IEEE 活動説明会を兼ねたイベントを企画し、学生会員の一層の増加を図る。既設の 7 大学 SB の協力により、SB が設置されていない大学に対しても、学生会員への積極的なサービス提供ならびに会員増強のプロモーションを図る。関西支部の 7 大学 SB を中心に、交流会を引き続き開催し、SB 間の交流を深める。さらに、SB Chair ミーティングを開催し、活動の活発化を促すとともに、SB 間の協力体制を強化することを目指す。また、LMAG、YP、WIE の各 AG と協力してさまざまなイベントを実施する。

(3) 表彰および研究奨励

2004 年から開始した IEEE 関西支部学生研究奨励賞を(AC と共同により)継続して企画し、優れた英文論文を発表した学生を表彰し、学生会員の研究を奨励する。また、受賞者が受賞内容について講演する機会を設けて、更なる学生会員の活動の活性化を目指す。

(4) 他支部の学生活動との連携

国内に設立されている他の 8 支部の学生活動との情報交換、連携により関西支部における学生会員活動のより一層の深化を図る。

d. Technical Program Committee

【2017年活動報告】

第100回の記念講演会を含め、以下の表に示す計5回の技術講演会を実施した。

	開催日	場 所	講 演 者	参加者数 (IEEE会員)	共催・協賛組織名
第 96 回	2017年 4月28日	テーマ：柔軟物体の視覚情報処理とその応用			
		立命館大学 梅田キャンパス	田中弘美 教授 (立命館大学理工学部)	12 (11)	IEEE 関西 WIE
第 97 回	2017年 6月22日	テーマ：災害対応への ICT / RT の活用			
		京都大学 防災研究所	畑山満則 教授 (京都大学防災研究所)	15 (11)	IEEE 関西 LMAG
第 98 回	2017年 9月5日	テーマ：高周波磁気デバイスの進展と IC チップレベルノイズ抑制技術への展望			
		立命館大学 梅田キャンパス	山口正洋 教授 (東北大学大学院 工学研究科)	12 (6)	IEEE SSCS 関西 Chapter IEEE MAG 関西/ 四国 Chapter
第 99 回	2017年 11月22日	テーマ：国立国会図書館における電子情報の長期保存に向けた取組み			
		国立国会図書 館関西館	本田伸彰 氏 (国立国会図書館関西館 電子図書館課研究企画 係係長)	13(10)	IEEE 関西 LMAG
第 100 回	2017年 12月16日	テーマ：人工知能のたどってきた道と私			
		関西大学 梅田キャンパス	長尾真 先生 (京都大学名誉教授)	54(45)	

【2018年活動計画】

2017年と同様、講演会の開催を主たる活動とする。2018年も5回以上の企画・開催を目指す。従来から継続している、大阪・京都・神戸地区での講演会の開催、会員からの講演会の提案受付に加え、他団体との共催などにも積極的に取り組む。

特に特定の Chapter に属さないような横断的/学際的分野、技術の方向性、イノベーション、グローバル化といった内容の講演会も積極的に開催する。

e. Awards Committee

【2017年活動報告】

2014年～2016年に引き続き、「IEEE 関西支部 Young Professionals 賞」の募集を行った。本賞では、学生会員、大学や研究所の若手研究員、企業の若手会員の3種類の表彰を行っている。2017年は5月に募集開始、10月5日に応募を締め切った。当委員会による議論の後、2名の受賞者を12月21日の支部理事会で決定した。1名は企業の若手会員の受賞となり、本カテゴリーでは初の受賞者となった。

また、「IEEE 関西支部学生研究奨励賞」の審査を、2017年も継続して SAC と合同で審査委員会を設立して行った。YP 賞と同様に、5月を募集開始、10月5日を応募期限として応募者を募った。当委員会と SAC による選定の後、12月21日の支部理事会において9名の受賞者を決定した。

【2018年活動計画】

2018年は、若手会員の増強施策としての「IEEE 関西支部 Young Professionals 賞」、ならびに学生会員の増強施策としての「IEEE 関西支部学生研究奨励賞」の募集のより一層の活性化と選定作業を継続して行う。2017年と同様、早期の募集を開始し応募数の増加につとめる。Young Professionals 賞については企業の若手会員で初の受賞者ができるなど徐々に活性化されているものの、依然応募数が少ないため、研究だけでなく関西支部への多様な貢献が表彰理由になる点や、過去に選に漏れた方も再応募可能な点などを強調することで、応募への心理的な妨げを取り除く。

また、賞の存在が学生や若手技術者が会員となる契機となるように、関西支部が関与する種々の研究集会において賞の存在をより積極的に周知する。

f. Chapter Operations Committee

【2017年活動報告】

現存 Chapter の活動を支援するとともに、Chapter 新設への支援を行っている。具体的には、JC COC と連携して進めている本部へのオンライン書類提出、Chapter 支援費、Section 傘下への移行支援、国際会議実施での MOU 締結手続き、ソサイエティ別 Section 所属会員数の提供、petition 作成支援等である。また、Kansai Section 独自の Chapter 支援についても実施した。

【2018年活動計画】

2018年は、関西支部内の Chapter で活動状況について横断的に情報共有を行い、各 Chapter の活動をさらに活性化させる。具体的には、Japan Council Chapter Operation Committee と連携して、各 Chapter 活動報告による情報共有、Distinguished Lecturer 制度の説明、Japan Council の支部 Chapter 支援費の説明などを行う。さらに、IEEE 本部へ行う報告や Chapter 維持条件の説明を通して、定常活動の維持について各 Chapter に再確認する。また、これまでに引き続き関西支部での Chapter を支援するため、新設に必要な情報の提供、既

存 Chapter との情報交換などを行う。他 Section との合同 Chapter 設立についても積極的に推進する。また、上記の情報共有ならびに交換を目的として Kansai Section の COC ミーティングも実施する。

g. Life Members Affinity Group

【2017 年活動報告】

活動 5 年目として LMAG 活動を活性化させるべく、2 回の現地講演会&見学会を技術講演会の一環として関西支部 TPC と共催した。6/22 京都大学防災研究所、11/22 国立国会図書館関西館、以上のそれぞれにおいて、LMAG が主体となった現地講演会を開催した。11/22 の現地講演会には、名古屋 LMAG から参加いただき、今後の連携イベントの礎を気づくことができた。各講演会の後には、有志による懇親会を開催し、今後の進め方や教育のありかたなどを論議し、メンバーの親睦を深めた。これらにより現地講演会というスタイルがいっそう定着した。

また、役員会は 2017 年度には 6 回開催した。第一回 (3/31)、第二回 (4/27)、第三回 (8/10)、第四回 (8/30) において、今後の進め方と運営内容、LMAG サロンについて議論した。第五回は 11/20 に淀屋橋住友ビルにおいて開催し、今年の活動のまとめと来年の活動の具体化と分担の確認について議論した。第六回は 12/22 に大阪市中津にて、来年度のさらなる活動具体化について案を出し合った。結果、2018 年度の実施計画が策定でき、交渉と調整を開始した。

2016 年に新たな活動として開始した気さくな LMAG サロンの継続を行っている。5/19 に京都コンピュータ学院において、元関西支部長、京大総長、理化学研究所理事長の松本紘先生による講演をお聞きし、高校教育の在り方などへの問題提起をいただいた。

他組織との連携も密になってきた。8 月の名古屋 MAW、10 月の SB 英語プレゼン大会にも LMAG メンバーが審査員として参加し、また、今後の運営に関して、アドバイスや意見を述べた。また 9 月には、初めての試みとして SB が主催するブレインストーミングの講習および実践イベントに参加し、講師の派遣や議論への参加などの協力を行った。

6 月と 11 月に従来よりも写真や顔写真を増やしてより見やすくした「Kansai-LMAG Newsletter」を発行しホームページに掲載するとともに電子メールにて案内した。

【2018 年活動計画】

2018 年は活動 6 年目として、活動をより活発化させる。2017 年と同様に関西支部 TPC、WIE などと連携して数回の講演会（現地講演会も含む）を開催する。すでに 3 件の具体的な企画が進行中である。LMAG サロンの活動を定着させることも大きな目標である。2018 年にはより気さくなサロン形式を目指したい。また、M3G (Multi-Generation, Gender and Genre)を活動指針として、YP や SB, WIE との連携を積極的に進める。具体的には、連携先の諸活動に経験豊かな LMAG メンバーも参加して、時には LMAG 賞の授与をするなど、幅広い視点から IEEE 関西の活動を支援する。これらの活動を「Kansai-LMAG Newsletter」として公開し、広く参加を呼び掛ける。

h. WIE Affinity Group

【2017 年活動報告】

(1) Kansai WIE シンポジウム

10月7日に大阪工業大学梅田キャンパスにおいて、「IEEE Kansai WIE シンポジウム 2017 – Enjoy Science, Technology and Your Life!」を開催した。Young Professionals (YP) AG に共催いただき、企画・広報に関して協力し準備を行った。また、内閣府男女共同参画局および大阪工業大学にご後援いただき、広報面・会場設備面での支援を受けた。

シンポジウム前半では、3名の女性研究者・技術者による以下の講演が行われた。

- ・ ソーシャルメディア解析 -技術・応用とグローバル化(千葉商科大学 商経学部 教授, 経済研究所 所長 橋本隆子 氏 (IEEE Women in Engineering Past Chair, IEEE MGA Membership Recruitment and Recovery Committee Chair))
- ・ あ うん ～自分らしさを活かすロボット開発を通じて～ (株式会社 ATOUN 商材開発本部 機構設計担当リーダー 松尾幾代 氏)
- ・ マイクロソフトの女性エンジニアの働き方 (マイクロソフトディベロップメント株式会社 Windows & Device 開発統括部 武藤祐子 氏)

シンポジウムの後半は、全員参加型のグループトークを実施した。「科学とテクノロジーと人生を楽しむためのヒント」をテーマにグループごとに意見交換を行ったのち、各グループでの議論を参加者全体で共有した。

シンポジウムへの参加者は 42 名(うち IEEE 会員は 28 名)であった。IEEE の非会員である若い世代の参加者も多く、シンポジウムの目的の一つである若い世代の女性に科学者・技術者の魅力を伝えることができたと思われる。また、今回は、MAW 名古屋と日程が重なった開催であったが、昨年並みの参加者数を数え、シンポジウムリピーターも確実に獲得している。本シンポジウムは WIE AG の年間活動の軸となるイベントとして今後も継続したいと考えている。



IEEE Kansai WIE シンポジウム

(2) 役員会

第1回(2/1@京都七条 Wine 蔵しおり)、第2回(5/18@大阪工業大学)、第3回(7/5@大阪工業大学)、第4回(8/22@大阪工業大学)、第5回(10/7@大阪工業大学)と開催し、主に運営体制の検討と、WIE シンポジウムの準備を行なった。

(3) 協賛およびその他の活動

- ・3/3 日本の IEEE 活動 60 周年記念イベント に参加
- ・4/28 IEEE 関西支部第 96 回技術講演会を TPC と共催
- ・6/6 Women in Circuits Networking Luncheon (IEEE Solid-State Circuits Society (SSCS) Women in Circuits (WiC)主催. 2018 Symposia on VLSI Technology and Circuits 併設イベント) に参加
- ・10/7 IEEE Day への参加 (荒木 chair が IEEE Day 2017 Ambassador に就任)
- ・10/8 Metro Area Workshop (MAW) in Nagoya2017 におけるポスター発表 (関西支部 WIE AG の活動報告)
- ・10/8 IEEE JAPAN SYWL WORKSHOP in Nagoya 2017 に参加。
井上 Vice chair がグループディスカッションのファシリテータを務める。
- ・同志社大学 “「科学するガールズ」養成プログラム” ※
同志社大学通信 One Purpose 192 号の特集「科学するガールズの新時代」における鼎談記事「次代を担う科学するガールズへの取り組み」への協力
<https://www.doshisha.ac.jp/attach/page/OFFICIAL-PAGE-JA-494/92330/file/no192.pdf>
※平成 28 年 国立研究開発法人 科学技術振興機構 女子中高生の理系進路選択支援プログラム 採択事業
- ・第 9 回 IEEE キャリアアップ・スキルアップに関するエッセイコンテストを実施 (全国の YP/WIE AG との共催)
- ・12/7 女子学生と技術者・研究者のためのオープン同上カフェ@けいはんな (公益財団法人京都産業 21 主催) におけるショートトーク (関西支部 WIE AG 取組紹介)
- ・12/16 IEEE 関西支部第 100 回技術講演会におけるポスター発表 (関西支部 WIE AG の活動報告)

【2018 年活動計画】

2018 年は、WIE AG 設立 5 周年を迎える。下記施策により、活動のさらなる活発化を図る:

- ・ WIE 活動に賛同するメンバーを募り、運営体制を強化する。
- ・ 女性研究者・技術者を応援するためのシンポジウムを開催する。
- ・ Student Branch, YP, LMAG, JC WIE, 他学会の女性支援関連活動などと連携しながら、関西での WIE 活動を推進する。

i. Young Professionals Affinity Group

【2017 年活動報告】

2017 年は関西支部の WIE、SAC、MDC と連携し、さまざまなイベントを共催した。

- 1) SYWL 合同ワークショップ@IEEE Japan Sections' 60th Anniversary Celebration
(3 月 3 日、千葉工業大学)
- 2) MDC/SAC/YP Join WS (6 月 1 日、11 月 29 日)
- 3) IEEE Kansai WIE Symposium 2017 共催 (10 月 7 日@大阪工業大学梅田キャンパス)
- 4) IEEE Japan SYWL Workshop in Nagoya 2017(10 月 8 日@中京大学 名古屋キャンパス)
- 5) YP エッセイコンテスト(11 月 9 日結果発表)

【2018 年活動計画】

2018 年も引き続き WIE、SAC、MDC と連携したイベントを実施し、若手研究者・技術者の交流、キャリアアップを促進していく。また、東京 YP、名古屋 YP とより密接な連携を行い、交流イベントを増やす予定である。遠隔地で開催されるイベントに参加する YP 会員には交通費などの補助を行い、より活発な交流を支援する。

IEEE 関西支部会員の増加は重要な課題であると考えており、特に YP となる大学院学生と新規若手会員の増加に向けて各 Committee、AG と協力して対策を検討する。年 2 回行っている Joint WS での議論から、学生や企業の若手研究者にとって IEEE 会員となるメリットが見えにくくなっているという点が問題であると考えている。これまでの交流イベントに加えて関西 YP 独自の Award など会員にとって直接のメリットとなる活動を検討し、YP 会員の増加を目指す。

10. Kansai Chapter 活動

a. EDS (Electron Devices Society) Kansai Chapter

【2017 年活動報告】

1月30日に"関西コロキウム電子デバイスワークショップ"を大阪工大うめきたナレッジセンターにて開催した。これは過去一年の主要論文誌の中から、関西に関係のある技術者による優れた論文を選定し、著者本人に講演してもらうもので、昨年は8編の論文を選定し、出席者28名での開催となった。

6月29日～30日には、国際会議 "2017 International Meeting for Future of Electron Devices, Kansai (IMFEDK 2017)" を京都駅前の龍谷大学響都ホールにて開催した。出席者は98名、うちIEEE会員は35名であった。発表された論文数は2編のチュートリアルを除いてショートプレゼン付きポスターが24編、口頭発表が18編、うち招待論文は6編であった。

10月3日には「パワーデバイス開発の現状と課題」と題し、SiCとGaNそれぞれを代表して2名の講師による技術講演会を大阪工大梅田キャンパスにて実施した。SiCに関しては、京都大学の木本恒暢先生による「高効率電力変換用SiCパワー半導体の進展と課題」、GaNに関してはパナソニック株式会社の上田哲三氏による「GaNパワーデバイス開発の現状と将来展望」とそれぞれの分野での第一人者による最先端の技術動向をお話いただいた。出席者数はIEEE会員19名を含んで36名で、講演後の質疑応答も活発であった。

【2018 年活動計画】

2018年も技術講演会を中心に活動を展開する。特に若手研究者を主な対象とした学会や講演会の開催を通じて、質の高い講演と技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。具体的には以下の通り計画している。

1月29日に、龍谷大学の大阪梅田キャンパスにて"第17回関西コロキウム電子デバイスワークショップ"を開催する。講師には国際レベルの研究成果を日本語にて発表して頂く予定である。先進性に優れていると判断された論文の著者にAwardを授与し、その学術的貢献を表彰する。

6月21日～22日には国際会議である"2018 International Meeting for Future of Electron Devices, Kansai (IMFEDK 2018)" を龍谷大学アバンティ響都ホールにて開催を予定している。

例年通り、招待講演(Keynote および Invited)、一般講演およびポスター講演(ショートプレゼンテーション付き)を実施する。学生や若手研究者を中心に参加頂き、会員の活発な技術交流と教育の場を提供する。先進性に優れていると判断された論文の著者にAwardを授与し、その学術的貢献を表彰。また、本会議に先立って、チュートリアル講演会を開催する計画である。

年の後半には電子デバイスの分野で関心の高いテーマを設定し、技術講演会を開催する予定である。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/eds/>

b. SSCS (Solid State Circuits Society) Kansai Chapter

【2017 年活動報告】

2月17日に、ISSCC2017 報告会を IEEE SSCS Japan Chapter と共催で神戸大学・梅田インテリジェントラボラトリで開催し、12名の講師の方に各技術分野についてご講演頂いた。

5月15～16日に、電子情報通信学会集積回路研究専門委員会との共催で、“LSI and Systems Workshop 2017”を東京大学で開催した。参加人数は347名であった。ポスター講演は77件あり、SSCS Kansai Chapter からは2件の Academic Research Award を表彰した。

6月15日に、2017 Symposium on VLSI Circuits 報告会を IEEE SSCS Japan Chapter と共催で東京大学・武田先端知ビル武田ホールにて開催し、12名の講師の方に各技術分野についてご講演頂いた。出席者は67名であった。また、同時開催講演会として IEEE SSCS Distinguished Lecturer の富士通研究所の田村泰孝氏をお招きし、“Circuit Design for High-Speed Serial Link Transceivers”という題目でDL講演会を実施した。

10月6日に、“技術セミナー「IoT時代に向けたセキュリティハードウェア技術」”を神戸大学・梅田インテリジェントラボラトリにて開催した。講演者として、本間尚文氏(東北大学)と Jean-Luc Danger 氏(フランス Telecom ParisTech)をお招きし、IoT セキュリティを支える軽量暗号技術の最新動向と PUF 技術に関する講演会を実施した。参加人数は約25名であった。

12月4日に、IEEE SSCS Distinguished Lecturer の Woogeun Rhee 氏(中国 清華大学)をお招きし、“Phase-Locked Frequency Synthesis and Modulation for Modern Wireless Transceivers”という題目でDL講演会を神戸大学・六甲台第2キャンパス 百年記念館にて実施した。参加人数は、15名であった。

12月29日に、IEEE SSCS Japan Chapter と共催で神戸大学・六甲台第2キャンパス自然科学総合研究棟にて、Edoardo Charbon 氏(スイス EPFL)をお招きして、“From SPADs to Quantum Computers”という題目で技術セミナーを実施した。参加人数は、8名であった。

【2018 年活動計画】

2018年も引き続き技術講演会を中心に活動を展開し、学生や若手研究者を主な対象とした質の高い講演と技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。2月頃に技術講演会を開催し、国内外より著名な VLSI 設計関連の技術者を招く予定である。さらに、関西地区等で開催される各種研究会、ワークショップにも積極的に協賛するとともに、協賛金と Award を出し、会員獲得に努める計画である。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/sscs/>

c. CASS (Circuits and Systems Society) Kansai Chapter

【2017 年活動報告】

2017 年は、2 件の技術講演会を実施し、また国際会議の共催を 1 件、国内大会の協賛を 1 件実施した。特に 2 件の技術講演会は、多数の学生や一般の参加者があり大変好評であった。さらに活発な議論も行われ、多くの参加者の今後の研究等の活動にも役立つと考えられる。詳細は以下のとおりである。

- 1) 8 月 21 日～23 日に Okayama Convention Center において、2017 Taiwan and Japan Conference on Circuits and Systems (TJCAS2017) を開催した。これは IEEE CASS Japan Joint Chapter, IEEE CASS Fukuoka Chapter, IEEE CASS Kansai Chapter, IEEE CASS Shikoku Chapter, IEEE CASS Taipei Chapter, IEEE CASS Tainan Chapter との共催であった。
- 2) 11 月 10 日～12 日に電気通信大学において開催された、第 60 回自動制御連合講演会 (Japan Joint Automatic Control Conference) に協賛した。
- 3) 11 月 24 日に大阪大学吹田キャンパスにおいて、山田昇平氏 (シャープ株式会社研究開発事業本部通信・映像技術研究所第一研究室係長, 大阪大学大学院情報科学研究科産学連携准教授) をお招きし、”企業から見た標準化特許の重要性～発明部門の視点から～ (Significance of Standard Essential patent for Company)”と題した技術講演会を開催した。(参加者 12 名, うち会員 7 名)
- 4) 12 月 1 日に大阪大学吹田キャンパスにおいて、今村公彦氏 (シャープ株式会社研究開発事業本部通信・映像技術研究所副所長兼第一研究室長, 大阪大学大学院情報科学研究科産学連携教授) をお招きし、”第 5 世代移動通信の技術動向 (Technical Trend of the fifth Generation Mobile Communications)”と題した技術講演会を開催した。(参加者 15 名, うち会員 10 名)

以上、最新技術動向に関する技術講演会を開催するとともに、国際会議や国内大会にも協賛することで、参加者との交流を通じて、活動のアピールと会員の獲得に努め、CASS 関西チャプターの活動をアピールすることができた。なお、実施した講演会や今後の予定については、詳細を以下の URL に掲載している。

【2018 年活動計画】

2018 年も 2017 年と同様に、技術講演会を主催・共催として企画・実行することを中心に活動し、学生や若手研究者・技術者を主な対象とした質の高い講演と技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。著名な国外研究者が集まる国際会議やプログラム委員会の開催に合わせて、講演会を開催することも検討する。また、関西地区で開催される各種研究会、ワークショップを共催、あるいは協賛し、学会活動に貢献するとともに会員獲得に努める計画である。例えば、2019 年 5 月に札幌で開催する国際会議 ISCAS2019 について、国内 4 チャプタで協力して開催準備を行う。

<http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/cas/>

d. APS (Antennas and Propagation Society) Kansai Joint Chapter

【2017 年活動報告】

昨年に引き続き、(1)関西圏におけるアンテナおよび無線通信技術に携わる若手技術者の育成を通して関西圏の産業振興に寄与すること、および(2)各種研究会・講演会活動を通して関西圏企業・大学の活性化を図ることを基本的なミッションとして活動を進めた。

1月20日に、広島工業大学広島校舎にて IEEE AP-S Kansai Joint Chapter 特別講演を主催し、吉川公麿 教授(広島大学)より「CMOS 集積回路による非侵襲乳がん検出システム」と題してご講演を頂いた。

1月21日には第1回役員会を開催して本年の活動計画を策定し、引き続き IEEE AP-S Kansai Joint Chapter Best Presentation Award 授賞式を実施し、2016年12月10日の IEEE AP-S Kansai Joint Chapter and IEEE MTT-S Kansai Chapter 合同若手技術交流会 2016 において優れたポスター発表を行った2名に賞を授与した。

4月20日に、大阪大学 豊中キャンパスにて IEEE AP-S Kansai Joint Chapter 特別講演を主催し、小見山 彰 教授(大阪電気通信大学)より「導波路系における光の拡散と局在」と題してご講演を頂いた。

9月9日に、大阪電気通信大学駅前キャンパスにて IEEE AP-S Kansai Joint Chapter 次世代の超高速ワイヤレス通信システムを支えるアンテナ・伝搬技術ワークショップを主催し、西尾理志 助教(京都大学)より「機械学習の基礎と無線通信制御への応用」と題してご講演を頂いた。参加者総数は69名であった。

12月9日には MTT-S Kansai Chapter との合同若手技術交流会を大阪電気通信大学において開催し、田中勇氣氏(パナソニック株式会社)より「マイクロ波エネルギーハーベストに向けた小型アンテナの開発」と題して、大学院生を対象とした実際の研究開発活動の体験をご講演いただいた。さらに、各大学、企業からのポスター展示を行い、活発な討論が行われた。

【2018 年活動計画】

昨年に引き続き、(1)関西圏におけるアンテナや無線通信技術に携わる若手技術者の育成を通して関西圏の産業振興に寄与すること、および (2)各種研究会・講演会活動を通して関西圏企業・大学の活性化を図ることを基本的なミッションとして活動し、1月に国際電気通信基礎技術研究所、10月に岡山大学において IEEE AP-S Kansai Joint Chapter 特別講演を計画。MTT-S Kansai Chapter との合同若手技術交流会を開催することを予定している。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/aps/>

e. COMS (Communications Society) Kansai Chapter

【2017 年活動報告】

2017 年は 3 件の技術講演会の主催を行った。COMS Kansai として、主に学生や若手研究者を対象とした通信技術の研究成果情報の提供を行い、技術講演会の開催ならびに学生ワークショップを実施し会員獲得のための活動を行った。

1 つ目の技術講演会は、6 月 30 日に京都大学 総合研究 9 号館北棟講義室 N1 にて、IEEE Communications Society Distinguish Lecturer (ComSoc DL) である Virginia Tech の Tom Hou 先生に「Pushing the Capacity Envelope of Wireless Networks: Opportunities and Challenges」と題して講演をしていただいた。聴講者数 11 名のうち会員は 6 名であった。7 月 28 日に大阪府立大学 工学研究科 B4 棟 E417 セミナー室にて、ComSoc DL である Xidian University の Jiajia Liu 先生に「Cooperative Jamming in Wireless Networks with Eavesdroppers at Arbitrary Locations」と題して講演をしていただいた。聴講者数 12 名のうち会員は 3 名であった。8 月 3 日にも大阪府立大学 工学研究科 B4 棟 E417 セミナー室で ComSoc DL である Supelec の Dr. Marco Di Renzo により「On System-Level Analysis & Design of Cellular Networks: The Magic of Stochastic Geometry」と題して講演して頂いた。聴講者数 11 名のうち会員は 4 名だった。

10 月 26 日には大阪産業大学 梅田サテライトキャンパス レクチャールーム A で学生ワークショップを開催した。TPC を構成し各プレゼンテーションの審査を行いました。同日、役員会も実施した。

広報活動を活性化するため Web サイトを活用して COMS Kansai Chapter に関する情報公開を行なっている。活動計画や報告は下記の URL により提供している。

【2018 年活動計画】

関西圏における通信技術に関わる技術者との交流をはかり、産業界とのつながりをもちつつ活性化を行うことを目的として講演会を開催する。加えて、通信技術に関わる研究者に議論と交流の場を提供し、会員数増加を目標に活動を行う。昨年と同様の活動を計画しており、7 月に講演者を招待し、IEEE COMS Kansai Chapter 技術講演会を主催する。11 月に大学院生や学部学生を対象とした IEEE COMS Kansai Student Workshop を開催することを予定している。また、他の研究講演会への積極的な共催を図り、周知活動を行うことで参加数増加を促し会員獲得を目指す。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/coms/>

f. CS (Computer Society) Kansai Chapter

【2017 年活動報告】

2017 年は 2 件の技術講演会の主催、1 件の技術講演会の共催、1 件の協賛を行った。技術講演会の内容は、具体的に次のとおりである。

2017 年 6 月 19 日(月)に、立命館大学びわこ・くさつキャンパス(BKC)エポック立命 21 1 階 エポックホールに於いて、人工知能からコグニティブ・コンピューティングというテーマで 2 件の講演を行った。1 件目は「ロボットによる言語獲得への道～記号創発ロボティクスへの招待～」と題して、立命館大学の谷口忠大氏にご講演頂いた。記号創発ロボティクスの概説の後に、ロボットによる言語獲得を支えるノンパラ メトリックベイズや深層学習を用いた機械学習手法に関してご紹介頂いた。2 件目は「コグニティブ・コンピューティングが変える生活」と題して、日本 IBM の高木 啓伸氏にご講演頂いた。音声対話と組み合わせた高精度な屋内ナビゲーション技術、高齢者支援のための解析技術などを紹介するとともに、生活を変える 技術としての AI の可能性について、ご紹介頂いた。講演会では、92 名の参加者を集めて活発な質疑応答が行われ、貴重な技術交流の場を持つことができた。

12 月 21 日(木)に、京都リサーチパーク に於いて、「宇宙機をとりまく最新技術」をテーマに 2 件の講演を行った。1 件目は「宇宙機用オンボードコンピュータの開発とデータ処理システム」と題して、三菱電機株式会社の佐々木 通氏にご講演頂いた。宇宙で使われるオンボードコンピュータやデータ処理システムの特徴とその設計思想に関してご紹介頂いた。2 件目は「宇宙機システム開発からの学びの体系化と応用～宇宙機システム開発からの学びを他の分野に活用する～」と題して、慶應義塾大学の白坂 成功氏にご講演頂いた。宇宙ステーション補給機や大学の超小型衛星など複数宇宙機のシステム開発を通じて得たシステム開発に関する学びをまとめた上で、それらを他の分野のシステム開発に活用するためのアプローチについてご紹介頂いた。講演会では、24 名の参加者を集めて活発な質疑応答が行われ、貴重な技術交流の場を持つことができた。

2017 年 5 月 15-16 日には、東京大学 生産技術研究所で行われた、LSI とシステムのワークショップの協賛を行った(参加者:344 名)。また、2017 年 3 月 7 日には、立命館大学 びわこ・くさつキャンパスで行われた、バイオチップ設計に関するチュートリアル講演の共催を行った。

【2018 年活動計画】

2018 年も技術講演会を中心に活動し、学生や若手研究者を主な対象とした質の高い講演と技術情報の提供を行い、会員獲得につなげることを目標とする。2017 年は国外研究者の講演会の協賛を行った。2018 年も関西地区で開催される各種研究会、ワークショップにも積極的に協賛し、会員獲得に努める計画である。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/cs/>

g. MTTS (Microwave Theory and Techniques Society) Kansai Chapter

【2017年活動報告】

Technical Meetings

I. 主催/共催

1. 講演会（主催）鉄道無線通信システムの技術動向と標準化動向ワークショップ

演者／演題：川西 哲也（NICT/早稲田大学）／海鉄道無線の研究開発動向と標準化活動

演者／演題：川崎 邦弘（鉄道総合技術研究所）／海中における電磁波伝播とその応用

演者／演題：川本 真紀夫（三菱電機株式会社）／新幹線列車無線の紹介と将来展望

演者／演題：柴垣 信彦（株式会社日立製作所）／ミリ波鉄道無線システムの動向

1月21日／龍谷大学 大阪梅田キャンパス／出席者数：57名(会員26名, 非会員31名)

2. 講演会（主催）高速、高周波用途を支える基板、材料技術ワークショップ

演者／演題：小寺 貴士（アンシスジャパン）／ANSYS HFSSの最新基板専用シミュレーション環境

演者／演題：高橋 成正（トーラス）／10Gbps越えの高速信号伝送を実現するプリント配線板の設計ポイント～ビア起因のシグナル&パワーインテグリティ～

演者／演題：佐藤 潤二（パナソニック）／ミリ波帯高速無線通信の実用化を支えるモジュール技術と応用展開

演者／演題：間瀬 淳（九州大学）／マイクロ波/ミリ波を用いた反射計（レーダ）の開発と応用

5月20日／大阪大学 豊中キャンパス／出席者数：69名(会員39名, 非会員30名)

3. 第10回マイクロ波英語発表会（主催）

7月1日 京都大学 宇治キャンパス

発表件数：20件／参加者数59名（会員28名、非会員31名）

4. 講演会（主催）IEEE MTT-S Kansai Chapter 創立10周年記念ワークショップ

演者／演題：大平 孝（豊橋技術科学大学）／ワイヤレス電力伝送理論10年の歩み

演者／演題：栗井 郁雄（リューテック）／電界結合型WPTシステムの見直しと新しい応用

演者／演題：石川 容平（京都大学）／再生可能エネルギーの大規模導入を促進する「次世代電力グリッド網構想」

演者／演題：石崎 俊雄（龍谷大学）／様々なアプリケーションに向けた無線電力伝送システムとデバイス開発

演題：パネルディスカッション 関西発のマイクロ波イノベーション

9月2日／同志社大学 今出川キャンパス／参加者数：89名（会員51名、非会員38名）

5. 講演会（主催）マイクロ波・ミリ波フォトンクス技術の応用と動向」ワークショップ

演者／演題：村田 博司（大阪大学）／高密度ユーザー環境における5G無線通信のためのフォトリソグラフィベースヘテロロジーニクス無線システム

演者／演題：久武 信太郎（岐阜大学）／フォトンクス技術によるミリ波・テラヘルツ波の周

波数領域精密計測

演者／演題：木内 等（国立天文台）／マイクロ波フォトンクス技術の電波干渉計への応用－
広範囲・高周波コヒーレント系の構築－

演者／演題：門 勇一（京都工芸繊維大学）／フォトンクス技術の人体近傍電界通信への応用
と新世代パワーエレクトロニクスに向けた期待

演題：パネルディスカッション 関西発のマイクロ波イノベーション

11月19日／同志社大学 今出川キャンパス／参加者数：33名（会員26名、非会員7名）

6. IEEE AP-S Kansai Joint Chapter/MTT-S Kansai Chapter 合同若手技術交流会 2017 （主催）

演者／演題：松田 喬（三菱電機）／化合物半導体高周波デバイスの開発

演者／演題：吉川 修平（山本ビニター）／高周波誘電加熱の技術紹介と高性能高周波ウェルダ
ーの開発

演者／演題：田中 勇気（パナソニック）／マイクロ波エネルギーハーベストに向けた小型アンテ
ナの開発

演題：パネルセッション

演題：ポスターセッション

12月9日（土）／龍谷大学ともいき荘／参加者数：81名（会員29名、非会員52名）

II. 協 賛

1. 電子情報通信学会 マイクロ波研究会

2017年1月～2017年12月の期間中に10回開催

2. 2017 Vietnam-Japan Microwave (VJMW2017)

2017年6月13日～14日 Hanoi University of Science and Technology（ベトナム）

3. 第8回日本電磁波エネルギー応用学会講演会

2017年5月31日 東京工業大学 大岡山キャンパス

4. 第11回日本電磁波エネルギー応用学会シンポジウム

2017年11月8日～11月10日 WINC AICHI(ウインクあいち 名古屋市)

5. 2017 Microwave Workshops and Exhibition

2017年11月29日～12月1日 パシフィコ 横浜

6. URSI-C 小委員会 第23期第10回公開研究会

テーマ：IoT 向け無線アクセス技術の標準化動向と今後の展開

2017年8月4日 岡山大学 津島キャンパス

7. URSI-C 小委員会 第23期第11回公開研究会

テーマ：将来に向けたアンテナ・伝搬・システム・信号処理技術の最新動向

2017年10月27日 琉球大学

Non-technical (e.g. Professional or Administrative) Meetings

1. 役員会

2017年1月21日／龍谷大学 大阪梅田キャンパス 出席者数：10名

2017年4月22日／大阪大学 出席者数：9名

2017年10月1日／大阪大学 出席者数：5名

2017年12月9日／龍谷大学ともいき荘 出席者数：6名

2. 2017年 IEEE 関西支部総会

2017年2月22日／マイドームおおさか Chapterからの出席者1名

3. 2017年 IEEE Chapter Operation Committee

2017年5月30日 機械振興会館 Chapterからの出席者数：1名

2017年11月15日 機械振興会館 Chapterからの出席者数：1名

【2018年活動計画】

2018年は、これまでの戦略領域について一部見直しを行うが、これまで通り技術講演会、若手技術者交流会、英語発表会を中心に活動を行うとともに、関西地区で開催される各種研究会、ワークショップを積極的に共催／協賛し、学会活動への貢献と会員獲得に努める計画である。また、2018年に国内で開催予定の国際会議、APMC2018の開催準備を、Japan Chapter、Nagoya Chapterと協力して進める。Fellow および Senior Member への昇格候補者支援も、引き続き両 Chapter と共同で行う。また、2014年より運用し始めた電磁波関連分野の学生と電磁波技術者を求めている企業の間を橋渡しする「マイクロ波 出会いの広場」をより効果的な運用に推進するとともに、この橋渡しを就職活動だけでなく学生のインターンシップなどにも展開する計画である。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/mtts/>

h. PHOS (Photonics Society (formerly LEOS)) Kansai Chapter

【2017 年活動報告】

Technical Meeting としては、1 月 18 日(水)に、伊勢市観光文化会館において、IEEE Photonics Society Kansai Chapter 特別講演を主催、片山竜二先生(大阪大学)から「極性ワイドギャップ半導体の量子光学応用」、川口真生氏(パナソニック(株))から「高出力 GaN 系半導体レーザーの技術と応用」という題目でご講演いただいた。参加者は 70 名であった。これは、翌 19 日(木)も含む 2 日間にわたって同会場において開催された、電子情報通信学会 OPE, LQE, PN, MWP, EST, EMT, IEE-EMT 研究会との併催である。

9 月 29 日(金)には、大阪大学において、IEEE Photonics Society Kansai Chapter 公開研究会「新たな光走査デバイスとその応用」を主催、村田博司先生(大阪大学)から「分極反転方強誘電体超高速偏向デバイス」、北村恭子先生(京都工芸繊維大学)から「変調フォトニック結晶レーザーによるビーム操作」、八木生剛氏(NTT-AT)から「KTN 結晶を用いた光スキャナ」、明渡純氏(産業技術総合研究所)から「メタル型光スキャナと各種応用」との題目でご講演いただいた。参加者は 51 名と盛会であった。

9 月 30 日(土)には、京都工芸繊維大学において、「第 3 回 IEEE Photonics Society Kansai Chapter 英語発表会」を主催した。13 名の学生による英語での発表と企業研究者の招待講演 1 件があった。優れた発表に対して Best Student Presentation Award を 1 件授与した。参加者は 30 名と盛会であった。

この他、12 月 15 日(金)には、機械振興会館にて開催された「半導体レーザー国際会議 2018 プレカンファレンス」に協賛した。国内外から伊賀健一先生(東工大)をはじめ計 11 件の招待講演があり、参加者は 100 名で盛会であった。

Administrative Meeting としては、1 月に伊勢市、3 月に横浜市、9 月には大阪大学と京都工芸繊維大学で役員会を開催、年間活動方針、Technical Meeting の企画、運営について協議した。

【2018 年活動計画】

2018 年も、技術講演会の開催を中心に活動を展開する。1 月 25 日には、例年通り電子情報通信学会の LQE/OPE/EMT/EST/MWP/PN/PEM 合同研究会と併催の形で、設立10周年記念特別講演を主催するほか、年間を通じてもう 1~2 件の技術講演会やワークショップを企画する予定である。好評であった学生英語発表会も開催する予定である。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/pho/>

i. SPS (Signal Processing Society) Kansai Chapter

【2017年活動報告】

Distinguished Lecturer 講演会を含む以下の4件の講演会を主催した。

1. 2017年3月29日(水)、京都大学 吉田キャンパス
講演者:Dr. Antoine Liutkus (Inria, France)
講演題目: Gaussian Processes for Multichannel Music Separation
参加者: 29名
2. 2017年4月24日(月)、京都大学 吉田キャンパス
講演者:Prof. Torbjørn Svendsen (Norwegian Univ. of Science & Technology)
講演題目: Detection-based speech recognition and unit discovery
参加者: 18名
3. 2017年9月22日(金)、京都大学 吉田キャンパス
講演者:Prof. Tulay Adali (University of Maryland Baltimore County)
(Distinguished Lecturer)
講演題目: Multiset and Multimodal Data Fusion
参加者: 20名
4. 2017年11月22日(水)、京都大学 吉田キャンパス
講演者:Prof. Rafael Ramirez-Melendez (Universitat Pompeu Fabra, Spain)
講演題目: Technology-Enhanced Music Learning for Health and Well-being
参加者: 15名

国際会議を含む以下の3件の Technical Meeting を共催した。

1. International Conference on Biometrics and Kansei Engineering (ICBAKE 2017)
2017年9月15日~17日
京都産業大学
<http://icbake.fit.ac.jp/2017/>
2. 信号処理・応用音響・音声共催研究会
2017年3月1日~2日
沖縄産業支援センター
3. 信号処理シンポジウム
2017年11月8日~10日
マリオス盛岡地域交流センター

学生賞に関する活動として、IEEE SPS Tokyo Joint Chapter および IEEE SPS Sendai Chapter との連名により、IEEE SPS Japan Student Journal Paper Award および IEEE SPS Japan Student Conference Paper Award を実施し、各2名を選定・表彰した。また、昨年度より新たな賞として IEEE SPS Japan Best Paper Award を実施し、受賞者3名を選定・表彰した。

また、SPS 主催の主要な国際ワークショップ MLSP2017と ASRU2017が日本で開催され、本 Chapter 関係者も主催者として貢献した。

【2018 年活動計画】

引き続き、講演会を開催し、会員を中心とする国内外の学術交流を図る。また、本 Chapter に所属する会員が Fellow に昇格したので、記念講演を開催する。

IEEE SPS Tokyo Joint Chapter、Sendai Chapter と連名で論文賞および学生賞の表彰を実施し、若手の研究を奨励するとともに、会員増加に努める。

これらの活動については下記 Web サイトで公開している。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/sps/>

j. CES (Consumer Electronics Society) West Japan Joint Chapter

【2017 年活動報告】

Technical Meetings

I. 主催/共催

1. 研究会(主催)

年月日/会場:2017年1月20日/海峡メッセ下関 出席者数:16名

内容:「コンシューマエレクトロニクス及び一般」をテーマとした研究会を開催した。発表件数は13件。山口大、名工大等からの発表があった。

2. 国際会議(主催) IEEE 6th Global Conference on Consumer Electronics (GCCE 2017)

年月日/会場:2017年10月24日~10月27日/ウインクあいち 出席者数:430名

内容:CE Society の Vice President・長谷教授が設立した国際会議。毎年10月に IEEE 主催の国際会議として日本で開催している。GCCE 2017 の運営主体は CE-08 West Japan Chapter で、主たる役割はその会員で行なった。Conference Chair は西村涼太氏(徳島大学)。発表件数は310件。本チャプターから若手論文賞(2件)の表彰を行った。

3. DL 講演会(共催)

年月日/会場:2017年11月14日/NHK 放送技術研究所

演者: Dr. Rich Chernock (IEEE BTS Distinguished Lecturer)

演題: Next Generation Broadcast Television: ATSC 3.0

演者: Prof. Ulrich Reimers (IEEE BTS Distinguished Lecturer)

演題: Co-operation of broadcast and wireless broadband networks: A Tower Overlay over LTE-A+ and 5G

4. Inter BEE 2017 特別講演(共催)

年月日/会場:2017年11月15日/幕張メッセ

特別講演司会: 長谷 智弘教授(龍谷大学)

特別講演:「欧米における次世代放送動向」

演者: Dr. Rich Chernock (Triveni Digital 最高科学責任者)

演題: 次世代テレビ放送:ATSC 3.0

演者: Prof. Ulrich Reimers(ブラウンシュバイク工科大学 通信工学研究所 マネージングディレクター)

演題: 放送とワイヤレスブロードバンドネットワークの連携:

A Tower Overlay over LTE-A+ および 5G

5. Inter BEE 2017 基調講演(共催)

年月日/会場:2017年11月16日/幕張メッセ

基調講演司会: 長谷 智弘教授(龍谷大学)

基調講演:「画像と音響の国際標準化動向」

演者: 浅井 光太郎(三菱電機株式会社 通信システム事業本部 技師長)

演題：画像・マルチメディアの国際標準化動向

演者：杉山 昭彦(日本電気株式会社 データサイエンス研究所・主席研究員)

演題：音響・音声信号の国際標準化動向

6. 国際会議(共催) 2017 TRON Symposium

年月日/会場:2016年12月13日~12月14日/東京ミッドタウン 出席者数:100名
CE Society の共催(Technical Sponsor)により、国際会議 2017 TRON Symposium を開催した。12月13日~15日に同場所で開催の TRONSHOW 2017 の一環として開催。

Non-technical (e.g. Professional or Administrative) Meetings

1. CE Society BoG Mtg.

年月日/会場:2017年1月8日/Las Vegas Convention Center, Las Vegas, US 出席者数: 30名

CE Society 本部の2016年の活動が報告され、2017年の活動計画を審議した。

2. チャプター役員会

年月日/会場:2017年1月20日/海峡メッセ下関 出席者数:3名

本年の活動計画を確認する打合せを実施した。

3. チャプター役員会

年月日/会場:2017年10月24日/ウインクあいち 出席者数:3名

GCCE 2017の準備状況を確認し、今後の進め方に関して打合せを実施した。

4. チャプター役員会

年月日/会場:2017年11月14日/NHK 放送技術研究所 出席者数:3名

本年の総括と来年の計画に関して打合せを実施した。

【2018年活動計画】

2018年10月9~12日に奈良ロイヤルホテル(奈良市)で国際会議 GCCE 2018を開催する。GCCE 2018では若手論文賞の表彰に加え、Young Profession イベントを通じて新規若手会員の獲得に努める。また、通常会員に対しては Senior Member Elevation Event を開催し、昇格を支援する予定である。また12月中旬に東京ミッドタウンで国際会議 2018 TRON Symposium (CE Society の共催(Technical Sponsor))を開催する。さらに1月21日に海峡メッセ下関において研究会を開催する(実施済)。

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/ces/>

k. CSS (Control Systems Society) Kansai Chapter

【2017 年活動報告】

Technical Meetings

I. 共催行事

1. 講演会 (2017/5/17)

講演：局所動的相互作用の設計による大域パターン生成

講師：岩崎徹也 博士 (米国 カリフォルニア大学 ロサンゼルス校 教授)

2. 講演会 (2017/6/3)

講演：Sliding Mode Controllers and Sliding Mode Control for Multi-input Nonlinear Uncertain Systems

講師：Elisabetta Punta 博士 (イタリア CNR-IEIIT)

講演：Randomized Algorithms and Uncertain Systems: Aeronautical Applications

講師：Elisa Capello 博士 (イタリア トリノ工科大学 / CNR-IEIIT)

II 協賛事業

1. 計測自動制御学会関西支部・システム制御情報学会 若手研究発表会 (2017/1/13)

2. 計測自動制御学会 第4回制御部門マルチシンポジウム (2017/3/6-9)

3. SCIE・SICE チュートリアル講座「データを読み解く ～分析・検索・推定の技術：基礎から応用まで～」 (2017/7/14)

4. The 49th ISCIE International Symposium on Stochastic Systems Theory and Its Applications (2017/11/3-4)

5. 第60回自動制御連合講演会 (2017/11/10-12)

6. システム制御情報学会セミナー「人間拡張工学の最先端」 (2017/11/9)

Non-Technical Meetings

Chapter 役員会

1. 第1回役員会 (2017/4/12)

2. 第2回役員会 (2017/5/8)

3. 第3回役員会 (2017/9/21)

【2018 年活動計画】

2018 年は、主催・共催行事の開催を検討する他、例年通り下記の学会に協賛をする予定。

1. 計測自動制御学会関西支部・システム制御情報学会 若手研究発表会 (2018/1/12)

2. 計測自動制御学会 第5回制御部門マルチシンポジウム (2018/3/8-11)

3. ISCIE・SICE チュートリアル講座

4. The 50th ISCIE International Symposium on Stochastic Systems Theory and Its Applications

5. 第61回自動制御連合講演会

6. システム制御情報学会セミナー

URL <http://www.ieee-jp.org/section/kansai/chapter/css/>

1. IES (Industrial Electronics Society) Japan Joint Chapter

【2017年活動報告】

Technical Meetings

I. 主催/共催

1. Distinguished Lecture (主催)

講演者: Prof. K. Gopakumar (Indian Institute of Science)

演題: 「Low Order Harmonic Suppression in Induction Motor Drives with Dodecagonal Voltage Space Vectors」

年月日/会場: 2017年5月9日/明治大学 生田キャンパス

出席者数: 44名

2. 講演会 (IEEE IES Japan Joint Chapter, IEEE IAS Japan Chapter, PELS Japan Chapter 主催)

講演者: 大山 和伸 (ダイキン工業株式会社)

演題: 「日本発の省エネ技術『インバータエアコンとIPMモータ』」

年月日/会場: 2017年1月27日/ダイキン工業テクノロジー・イノベーションセンター

出席者数: 123名

3. 電気学会 半導体電力変換/モータドライブ技術合同研究会 (共催)

年月日/会場: 2017年1月27日~28日/ダイキン工業テクノロジー・イノベーションセンター

発表件数: 49件

出席者数: 223名 (2日間のべ人数)

4. パワーエレクトロニクス学会定例研究会 第217回研究会 (共催)

年月日/会場: 2017年4月22日 中央電気倶楽部

発表件数: 4件

出席者数: 84名

5. パワーエレクトロニクス学会定例研究会 第218回研究会 (共催)

年月日/会場: 2017年7月8日 大阪大学 吹田キャンパス

発表件数: 4件

出席者数: 81名

6. パワーエレクトロニクス学会定例研究会第219回研究会 (共催)

年月日/会場: 2017年9月23日 大阪電気通信大学 駅前キャンパス

発表件数: 5件

出席者数: 66名

7. パワーエレクトロニクス学会定例研究会第220回研究会 (共催)

年月日/会場: 2017年11月11日 神戸市立工業高等専門学校

発表件数: 6件

出席者数: 67名

8. パワーエレクトロニクス学会定例研究会第 221 回研究会(共催)
年月日/会場: 2017 年 12 月 23 日 大阪府立大学 中百舌鳥キャンパス
発表件数: 41 件
出席者数: 174 名
9. 電気学会 半導体電力変換/家電・民生/自動車合同研究会(共催)
年月日/会場: 2017 年 12 月 14 日~15 日 常翔学園本部 研修センター
発表件数: 13 件
出席者数: 54 名

II. 協賛

1. スマートエネルギーセミナー「分散エネルギーシステムで変わるインフラ～ 地産地消、ZEH、VPP、防災、IoT、オフグリッド、海外事情 ～」(主催:福岡スマートハウスコンソーシアム, 横浜スマートコミュニティ, 大阪工業大学)
年月日/会場: 2017 年 2 月 16 日 東京ビッグサイト 会議棟 7F 703 会議室
発表件数: 21 件
出席者数: 120 名
2. 電気学会 産業応用部門大会 (主催:電気学会)
年月日/会場: 2017 年 8 月 29 日~31 日 函館アリーナ
発表件数: 639 件
出席者数: 1227 名
3. Smart Energy Japan West 2017 スマートエネルギーセミナー(主催:福岡スマートハウスコンソーシアム, 横浜スマートコミュニティ, 常翔学園大阪工業大学, 芝浦工業大学)
年月日/会場: 2017 年 9 月 28 日 グランフロント大阪コンベンションセンタールーム 1
発表件数: 14 件
出席者数: 126 名

Non-technical Meetings

1. 第1回役員会
年月日/会場:2017 年 4 月 22 日/ 中央電気倶楽部 513 室
出席者数: 3 名
2. 第 2 回役員会
年月日/会場:2017 年 12 月 23 日/ 大阪府立大学 中百舌鳥キャンパス
出席者数: 4 名

Chapter 支援費利用事業

1. IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter Young Engineer Award (2017 年 4 月 22 日実施)
IEEE IES Japan Joint Chapter が共催して 2016 年に開催された第 212 回から第 216 回までのパワーエレクトロニクス学会定例研究会で発表された論文の中から, 35 歳以下の若手に

よるもの 1 件の優秀な発表者に対して IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter Young Engineer Award を授与し、副賞として図書カード 1 万円分を授与した。

主旨: (B) 若手獲得・育成の企画、利用支援費 1 万円

内訳: 副賞(1 万円) / 件×1 件

2. IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter 若手優秀発表賞 (2017 年 12 月 23 日実施)

IEEE IES Japan Joint Chapter が共催して 2017 年 12 月 23 日に開催されたパワーエレクトロニクス学会第 221 回定例研究会で発表された論文の中から、35 歳以下の若手によるもの 2 件の優秀な発表者に対して IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter 若手優秀発表賞を授与し、副賞として図書カード 1 万円分を授与した。

主旨: (B) 若手獲得・育成の企画、利用支援費 2 万円

内訳: 副賞(1 万円) / 件×2 件

【2018 年活動計画】

2018 年は、1 月 19 日に IEEE IES Japan Joint Chapter, IEEE IAS Japan Chapter, PELS Japan Chapter 合同主催で、講演会(講演者: 赤木泰文 教授, 東京工業大学)の開催を予定している。また、パワーエレクトロニクス学会と共催で、4 月、6 月、8 月、10 月、12 月に定例研究会の開催が予定されている。

また、例年通り以下の表彰を行う計画である。

1. 2018 IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter Young Engineer Award

IEEE-IES Japan Joint Chapter が毎回共催しているパワーエレクトロニクス学会定例研究会(12 月の研究会は対象から除外する)の満 35 歳以下(ただし発表時点において)の最優秀論文 1 件の発表者に対して IEEE Industrial Electronics Society Japan Chapter Young Engineer Award を授与する。

2. 2018 IEEE Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter 若手優秀発表賞

IEEE-IES Japan Joint Chapter が共催して 12 月に開催されるパワーエレクトロニクス学会定例研究会では学生・若手技術者によりポスター形式で 30 件程度の発表会が行われている。その中の優秀発表 2 件の発表者に対して IEEE Industrial Electronics Society Japan Chapter 若手優秀発表賞を授与する。

これらの活動については下記の Web サイトで広報を行う。

URL <http://www.ieeeiesjapanchapter.blogspot.jp/>

m. MAG (Magnetic Society) Kansai/Shikoku Joint Chapter

【2017年活動報告】

Technical Meetings

I. 主催/共催

1. 第3回関西四国磁性研究会（主催）
年月日／会場：2017年6月24日 大阪府立大学 なかもずキャンパス
発表件数：招待講演3件，ポスター発表17件
出席者数：30名
2. DL講演会（主催）
年月日／会場：2017年8月3日 大阪府立大学 なかもずキャンパス
発表件数：1件（IEEE DL: Prof. Michael Farle）
出席者数：50名
3. 第98回IEEE Kansai Section 技術講演会（共催）
年月日／会場：2017年9月5日 立命館大学 梅田キャンパス
発表件数：1件
出席者数：6名
4. DL講演会（主催）
年月日／会場：2017年9月25日 大阪大学 吹田キャンパス
発表件数：1件（IEEE DL: Dr. Hendrik Ohldag）
出席者数：31名
5. 大阪府立大学理学系研究科物理科学談話会（共催）
年月日／会場：2017年12月11日 大阪府立大学 なかもずキャンパス
発表件数：1件（Prof. Joel S Miller (University of Utah, USA)）
出席者数：40名
6. 大阪府立大学理学系研究科物理科学談話会（共催）
年月日／会場：2017年12月14日 大阪府立大学 なかもずキャンパス
発表件数：1件（Dr. Javier Campo (CSIS/Univ. Zaragoza, Spain)）
出席者数：20名
7. 「IEEE Kansai/Shikoku Joint Sections Magnetics Society Chapter 講演会（主催）
年月日／会場：2017年12月18日 愛媛大学 城北キャンパス
発表件数：1件（小川智之先生（東北大学））
出席者数：25名

Non-technical Meetings

1. 第1回役員会
年月日／会場：2017年6月24日 大阪府立大学
出席者数：4名
2. 第2回役員会

年月日／会場： 2017年12月18日 愛媛大学

出席者数： 3名

【2018年活動計画】

2018年は、関西・四国圏の磁性関連研究者を対象に技術講演会の開催や、学生・若手研究者を主たる対象とした研究会を開催するなど、技術情報の提供や会員獲得に向けた活動を実施する。具体的には、5-7月に大阪地区において、基調講演と学生のポスター発表会をメインとした、第4回関西四国磁性研究会を開催する予定である。同会では、学生に奨励賞を授与する予定である。これ以外に、DL講演会、四国地区での研究会の主催も企画する。また、他学協会の研究会などを共催・協賛する予定である。併せて会員への情報提供のため、HPの開設、充実を図る。

URL <http://ieemag.wixsite.com/kansai-shikoku>

V. 関西支部会員数

1. 会員数推移状況（1月調査時点）

表 1. 年ごとの会員数と内訳

Year	H	LF	F	LS	SM	LM	M	AM	GSM	StM	Total
2008	0	29	50	7	99	43	1,499	99	190	115	2,131
2009	0	33	50	6	94	45	1,536	105	216	129	2,214
2010	0	36	50	7	102	45	1,561	89	204	162	2,256
2011	0	40	48	9	110	50	1,559	105	233	159	2,313
2012	0	44	38	11	118	59	1,587	82	317	78	2,334
2013	1	45	35	14	113	64	1,604	62	288	129	2,355
2014	1	46	31	20	116	69	1,594	60	271	99	2,307
2015	1	45	34	18	127	75	1,556	55	255	93	2,259
2016	1	48	30	23	126	82	1,547	61	258	82	2,258
2017	1	48	28	24	124	84	1,520	61	290	52	2,232

Grade code H: Honorary member, LF: Life Fellow, F: Fellow,
 LS: Life Senior member, SM: Senior Member,
 LM: Life Member, M: Member, AM: Associate Member,
 GSM: Graduate Student Member, StM: Student Member

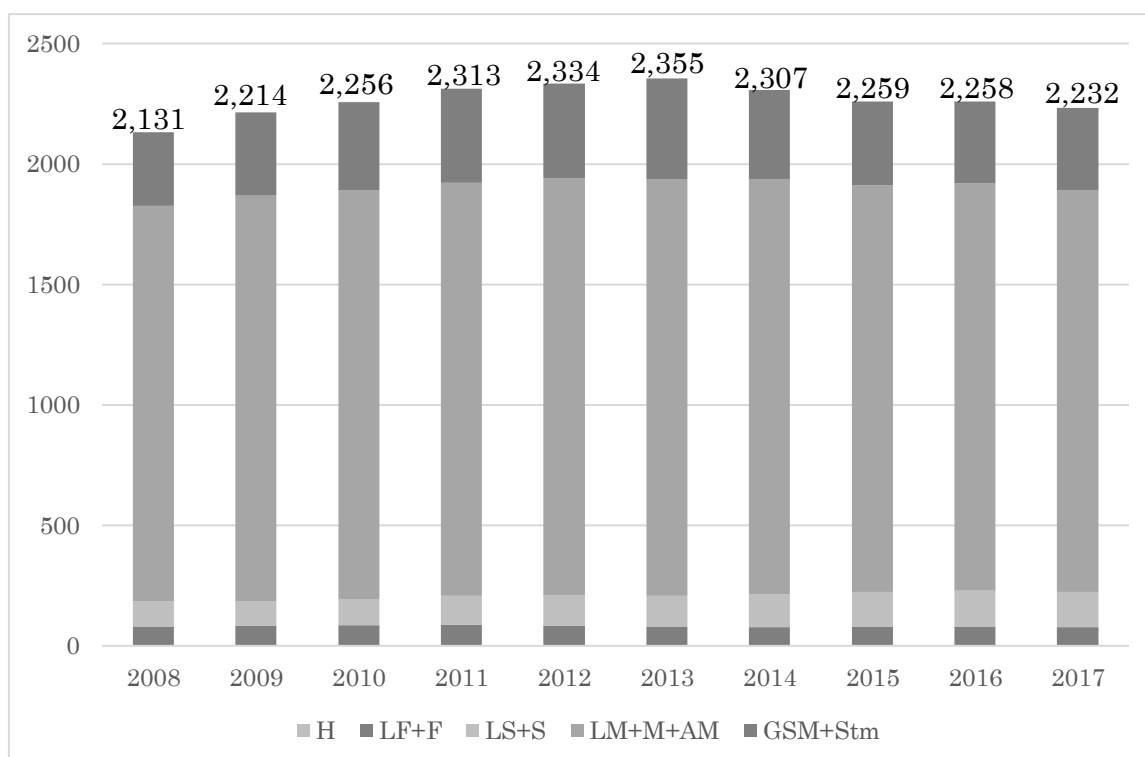


図 3. 会員区分の推移

11. ソサイエティ別会員数

			[2018年2月2日更新]		◎ 幹事Chapter									
Society Code	Society Chapter Name	Established Year	関西支部メンバー数	Chapter 構成	札幌	仙台	信越	東京	名古屋	関西	四国	広島	福岡	
SP-01	Signal Processing Society Tokyo Joint Chapter	1982		東京Joint	○		○	◎	○		○	○	○	
	Signal Processing Society Sendai Chapter	2013		仙台単独		◎								
	Signal Processing Society Kansai Chapter	2007	146	関西単独						◎				
BT-02	Tokyo/Japan Sections Broadcast Technology Society Joint Chapter	1983	4	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	
AP-03	Anntenas and Propagation Society Tokyo Chapter	1972-1972		東京Joint	○	○	○	◎						
	Anntenas and Propagation Society Nagoya Chapter	2006		名古屋単独					◎					
	Anntenas and Propagation Society Kansai Chapter	2006	59	関西Joint						◎	○	○		
	Anntenas and Propagation Society Fukuoka Chapter	2005		福岡単独									◎	
CAS-04	Circuits and Systems Society Japan Joint Capter	1972-1972		東京Joint	○	○	○	◎	○			○		
	Circuits and Systems Society Kansai Capter	2002	126	関西単独						◎				
	Circuits and Systems Society Shikoku Capter	2006		関西単独							◎			
	Circuits and Systems Society Fukuoka Capter	2001		福岡単独									◎	
NPS-05	Nuclear and Plasma Sciences Society Japan Chapter	1981	29	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	
VT-06	Vehicular Technology Society Tokyo Chapter	1979	42	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	
R-07	Reliability Society Japan Joint Chapter	1983	12	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	
CE-08	Consumer Electronics Society East Joint Japan Chapter	1983		東京Joint	○	○	○	◎						
	Consumer Electronics Society West Joint Japan Chapter	2008	24	関西Joint					◎	○	○	○	○	
IM-09	Instrumentation and Measurement Tokyo/Japan Sections Joint Chapter	1973	12	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	
AES-10	Aerospace and Electronic Systems Society Japan Chapter	1991	13	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	
CIS-11	Computational Intelligence Society Japan Chapter	2004	90	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	
IT-12	Information Theory Society Japan Chapter	1981	38	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	
IE-13	Industrial Electronics Society Japan Joint Chapter	1981	58	関西Joint	○	○	○	◎	○	◎	○	○	○	
TEM-14	Technology and Engineering Management Society Japan Chapter	1997	12	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	
ED-15	Electron Devices Society Japan Chapter	1972-1972		東京Joint	○	○	○	◎	○		○	○	○	
	Electron Devices Society Kansai Chapter	2000	182	関西単独						◎				
C-16	Computer Society Japan Chapter	1967		東京Joint	○	○	○	◎	○		○	○		
	Computer Society Kansai Chapter	2006	370	関西単独						◎				
	Computer Society Fukuoka Chapter	2004		福岡単独									◎	
MIT-17	Microwave Theory and Techniques Society Japan Chapter	1958		東京Joint	○	○	○	◎			○	○	○	
	Microwave Theory and Techniques Society Nagoya Chapter	2010		名古屋単独					◎					
	Microwave Theory and Techniques Society Kansai Chapter	2006	134	関西単独						◎				
EMB-18	Engineering in Medicine and Biology Society Japan Chapter	1970	116	東京Joint	○	○	○	◎	○	○				
	West Japan Chapter of Engineering in Medicine and Biology	2007		福岡Joint							○	○	◎	
COM-19	Communications Society Japan Chapter	1973		東京Joint	○		○	◎	○		○	○	○	
	Communications Society Sendai Section Chapter	2012		仙台単独		◎								
	Communications Society Kansai Chapter	2006	184	関西単独						◎				
UFFC-20	Ultrasonics, Ferroelectrics and Frequency Control All Japan Joint Chapter	1986	48	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	
CPMT-21	Components, Packaging and Manufacturing Technology Society Japan Chapter	1994	32	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	
OE-22	Oceanic Engineering Society Japan Chapter	1996	12	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	
CS-23	Control Ssystems Society Japan Chapter	1981		東京Joint	○	○	○	◎	○		○	○	○	
	Control Ssystems Society Kansai Chapter	2011	89	関西単独						◎				
RA-24	Robotics and Automation Society Japan Joint Chapter	1990	158	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	
E-25	Education Society Japan Chapter	1981	16	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	
PC-26	Professional Communication Society Japan Chapter	2006	1	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	
EMC-27	Electromagnetic Compatibility Society Japan Joint Chapter	1980	21	東京Joint	○		○	◎	○	○	○	○	○	
	Electromagnetic Compatibility Society Sendai Chapter	2001		仙台単独		◎								
SMC-28	Systems, Man, and Cybernetics Society Japan Chapter	1974	105	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○		○	
	Systems, Man, and Cybernetics Society Hiroshima Chapter	2005		広島単独								◎		
GRS-29	Geoscience and Remote Sensing Society All Japan Joint Chapter	1982	16	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	
SIT-30	Society on Social Implications of Technology Japan Chapter	1983	2	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	
PE-31	Power & Energy Society Japan Joint Chapter	1964	51	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	
DEI-32	Dielectrics and Electrical Insulation Society Japan Chapter	1986	12	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	
MAG-33	Magnetics Society Tokyo Chapter	1977		東京Joint				◎				○	○	
	Magnetics Society Sendai/Sapporo Joint Chapter	2005		仙台Joint	○	◎								
	Magnetics Society Shin-etsu Chapter	2015		信越単独			◎							
	Magnetics Society of Japan Nagoya Chapter	2008		名古屋単独					◎					
	Kansai/Shikoku Joint Sections Magnetics Society Chapter	2015	36	関西Joint						◎	○			
IA-34	Industry Applications Society Japan Chapter	1973	50	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	
PEL-35	Power Electronics Society Japan Joint Chapter	1990	21	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	
	Power Electronics Society Fukuoka Chapter	2011		福岡単独									◎	
PHO-36	Photonics Society Japan Chapter	1986		東京Joint	○	○	○	◎	○		○	○		
	Photonics Society Kansai Chapter	2007	75	関西単独						◎				
	Photonics Society Fukuoka Chapter	2011		福岡単独									◎	
SSC-37	Solid-State Circuits Society Japan Chapter	1998		東京Joint	○	○	○	◎	○		○	○	○	
	Solid-State Circuits Society Kansai Chapter	2001	116	関西単独						◎				
ITS-38	Intelligent Transportation Systems Society Tokyo Chapter	2014	18	東京単独				◎						
	Intelligent Transportation Systems Society Nagoya Chapter	2013		名古屋単独					◎					
PSE-43	Product Safety Engineering Society		2						◎					
CEDA-44	Council on Electronics Design Automation All Japan Joint Chapter	2014	2	東京Joint	○	○	○	◎	○	○	○	○	○	
				関西単独									◎	
				関西Joint									◎	
				他支部Joint									◎	
			#	他支部Jointで関西支部会員数が50名を超えるもの										

「◎」幹事 Section (活動の主体、Rebate の受領及活動報告義務)、「○」Joint Chapter に参画している Section 12 名以上で、Chapter の設立が可能。なお、関西 Section が参画する Chapter のみを一覧

VI. 2017年 会計報告

収入の部	予算値(単位：円)	実績値(単位：円)	(CB口座に振り込まれた日のレートで計算)
◆IEEE Entity間勘定	1,572,765	1,652,302	収入内容
・ Section Rebate (IEEE本部より)	1,457,468	1,586,954	\$14,405.9 (Chapter Rebate&Bonus: \$ 3,310、 AG Rebate&Bonus: \$ 810含む)
▲Chapter Rebate支払	▲ 337,620	▲ 364,630	(\$ 200X13)X1.1+ \$ 75X6= \$ 3,310
▲Affinity Group Rebate支払	▲ 67,320	▲ 89,230	(\$ 200X3)X1.1+ \$ 75X2= \$ 810
・ SB Rebate	96,492	84,117	\$744.00 (京大を除く6SB)
▲SB Rebate支払	▲ 96,492	▲ 84,117	
・ Section Rebate 小計	1,052,528	1,133,095	
・ Section Assessment 2017前後期	3,786,368	4,042,443	前期: \$36,454.54 後期: \$815.71
▲Japan Council抛出名+振込手数料	▲ 3,407,731	▲ 3,638,199	前期: 90%JC 後期: 90%JC
▲ 82,855			
・ Section Assesment小計	378,637	413,450	10%還元分(前期:404,244+下期:9,206)
・ LMAG 支援費	30,000	0	Fund関連
・ WIE 支援費	81,600	27,843	\$250 (R10 WIE Support Fund)
		44,264	\$400 (R10 WIE Support Fund)
・ YP 支援費	30,000	0	Fund関連
・ そのほかの収入 (計画外)	0	33,651	\$300 (R10:Annual Election Volting Percentage Incentive(2nd))
◆Japan Councilからの支援	0	0	Japan CouncilからSection支援は特別な場合を除き、行わないことが2016年第3回JC理事会で決定
・ Section 支援金 (総会メダル代、研究奨励)	0	0	YP賞メダル(3個分) 関西支部メダル(10個) 学生奨励賞(10名)
・ Section 支援金 (WIE)	0	0	WIE Symposium,WIE/YP joint WS
・ Section 支援金 (YP)	0	0	YP WS
・ Section 支援金 (Student Branch 支援費)	0	0	English Prsentation大会, SB交流会
◆そのほかの収入	500,000	500,000	
・ Histelconからの貸付金返済	500,000	500,000	2016年貸付分返済
小計	2,072,765	2,152,302	
◆2016年からの繰越金	2,974,711	2,974,711	国内銀行口座(MTUFJ): ¥810,367 CB口座: \$20,577.08
合計	5,047,476	5,127,013	

支出の部	予算値(単位：円)		実績値(単位：円)
◆会合・AWARD・活動費	2,626,000	2,197,599	支出内容
・ 関西支部活性化費	300,000	312,232	ANZSCON派遣費用(学生2名) (Section Congress支援費(150,000)で不足分を支援)
・ Chapter活動強化費	400,000	0	Chapter支援費/会員メリット強化対策費
・ 総会開催費	400,000	415,463	・ 学生交通費、・ 資料代、・ 備品宅急便代 ・ 会場費用+懇親会費
▲ 懇親会費徴収	▲ 200,000	▲ 185,000	総会懇親会
・ 講演会	50,000	211,373	第96回、97回、98回技術講演会：謝礼 第100回技術講演(+AG活動報告)：懇親会
・ 理事会費	300,000	75,096	第1-5回会場費、飲食費
・ Committee会合費	250,000	154,350	MDC/SAC/YP合同会議(2回)
・ 総会メダル、研究奨励賞	326,000	359,078	メダル(YP賞、関西支部) 学生研究奨励賞(11名分)
・ Student Branch支援費	200,000	392,046	SB研究交流会、ブレインストーミングコンテスト、 英語プレゼン大会
・ LMAG支援費	120,000	96,297	IEEE MAW in Nagoya参加、 技術講演会開催および準備費用
・ WIE支援費	200,000	216,664	Kansai WIE Symposium開催 IEEE MAW in Nagoya参加、
・ YP支援費	80,000	0	YP WorkShop等(Rebate費用使用)
・ R10 Meeting事務局派遣支援	50,000	0	Secretary旅費支援
・ Section Congress支援	150,000	150,000	ANZSCON派遣費用(学生2名) (費用：462,232 不足分は関西支部活性化費から補填)
◆ 事務経費	42,000	0	
・ 関西支部ページ移行費用	0	0	本年は移行せず
・ 外部監査費	0	0	外部監査不要
・ 事務用品費	2,000	0	ファイル費など
・ 旅費	20,000	0	理事交通費
・ 通信費	20,000	0	郵送費、宅急便等
◆ 雑費	25,000	15,798	
・ 為替手数料、振込手数料、他	25,000	15,798	被仕向送金手数料 (Section Assessment, Section Rebate) 振込手数料 (Chapter Rebate, SB Rebateなど)
小計	2,693,000	2,213,397	
◆ 2018年への繰越	2,354,476	2,913,616	国内銀行口座(MTUFJ)：¥1,594,762 CB口座：\$13,149.42
合計	5,047,476	5,127,013	

VII. 2018年 予算

収入の部		想定レート：110円/\$、単位：円
◆IEEE Entity間勘定	1,843,420	内容
・ Section Rebate (IEEE本部より)	1,678,655	・ 2017年実績から：\$ 14405.9 (Chapter Rebate&Bonus: \$ 3,310、 AG Rebate&Bonus: \$ 810 含む) ・ LMAG Reimbursement:\$854.60(←2017の支援費分)
▲Chapter Rebate支払	▲ 364,100	(\$ 200X13)X1.1+ \$ 75X6= \$ 3310
▲Affinity Group Rebate支払	▲ 89,100	(\$ 200X3)X1.1+ \$ 75X2= \$ 810
・ SB Rebate	95,480	\$868 (2017年実績から算出)
▲SB Rebate支払	▲ 95,480	
・ Section Rebate 小計	1,225,455	
・ Section Assessment 2018前後期	4,099,728	2017年実績から 前期:\$36,454.54 後期:\$815.71
▲Japan Council拠出金+手数料	▲ 3,566,763	Assesment入金 87% (13%はSectionに還元)
・ Section Assesment小計	532,965	13%還元残高
・ LMAG Fund	11,000	
・ WIE Fund	44,000	\$400 (IEEE R10 WIE)
・ YP Fund	30,000	
・ AG Fund 小計	85,000	
◆Japan CouncilからのSection支援 (Fund)	360,000	2018年から
・ Section支援(WIE)	100,000	Kansai WIE Symposiumの半額支援
・ Section支援(SB)	130,000	英語プレゼン大会の半額支援
・ Section支援(SB)	30,000	ブレーンストーミングコンテスト大会の半額支援
・ Section支援	100,000	第100回記念技術講演会の半額支給
小計	2,203,420	
◆2017年からの繰越金	2,913,616	国内銀行口座(MTUFJ)：¥1,594,762 CB口座：\$13,149.42
合計	5,117,036	

収入の部		想定レート：110円/\$、単位：円
◆会合・AWARD・活動費	2,513,500	内容
・関西支部活性化費	500,000	会員増強対策費 MAW(九州)のAG派遣費用支援 ・SYWL Congressへの学生派遣 250,000
・Chapter活動強化費	0	ChapterはSocietyからの支援が基本と考え、 項目は廃止し支部活動活性化費に統合 ----- 会員メリット強化対策費：関西支部活性化費に統合
・総会開催費	450,000	資料代、懇親会費など
▲懇親会費徴収	▲ 200,000	総会懇親会（懇親会参加費入金分） （5,000円×40名想定）
・講演会	50,000	TPCの講演者への謝礼：5名分 （技術講演会の開催回数5回を計画：第101回～第105回）
・理事会費	300,000	会場代、弁当代 6回 （2018年はOfficers選挙のため、6回の開催を見込）
・Committee会合費	250,000	各WS、2回、SAC等
・総会メダル、研究奨励賞	333,500	YP賞メダル(3個分) 関西支部メダル(10個分) 学生研究奨励賞(10名分)
・Student Branch支援費	400,000	SB Chairミーティング、研究交流会、 英語プレゼン大会、プレンストーミングコンテスト
・LMAG支援費	150,000	技術講演会開催費および準備費用、 LMAGサロン、LMAG賞(新設) (年初AG Rebate,Fund除く)
・WIE支援費	200,000	WIE Symposium (YP共催予定)、WIE関西紹介パンフレット作成 (年初AG Rebate,Fund除く)
・YP支援費	80,000	YP WS (年初AG Rebate,Fund除く)
・R10 Meeting派遣支援	0	旅費支援
◆事務経費	42,000	
・外部監査費	0	外部監査不要
・事務用品費	2,000	ファイル等
・旅費	20,000	各種旅費支援
・通信費	20,000	郵送費、宅急便等
◆雑費	25,000	
・為替手数料、振込手数料、他	25,000	為替手数料、振込手数料 (理事会会場費振込、CB口座より送金、 AG等への支援費振込み 他)
小計	2,580,500	
◆2019年への繰越	2,536,536	
合計	5,117,036	

VIII. 受賞者

IEEE 関西支部 Young Professionals 賞受賞者 (2名)

伊原 彰紀	奈良先端科学技術大学院大学
安藤 健	パナソニック

IEEE 関西支部学生研究奨励賞受賞者 (9名)

辺 松	京都大学
大石 一輝	京都大学
増田 容一	大阪大学
森田 俊平	京都大学
坂下 僚平	大阪大学
大場 斗士彦	大阪大学
藤田 雄也	京都大学
濱屋 政志	大阪大学
Fakir Sharif Hossain	奈良先端科学技術大学院大学

IEEE 関西支部 メダル受賞者 (新 Senior member) (9名)

蔡 凱	大阪市立大学
橋本 智昭	大阪工業大学
石田 修一	立命館大学
村田 忠彦	関西大学
野田 泰史	パナソニック
阪本 卓也	兵庫県立大学
島田 義英	
谷口 義明	
吉河 たけふみ	長野工業専門学校

IEEE 関西支部 新 Fellow (3名)

馬 書根	立命館大学
小野寺 秀俊	京都大学
澤田 宏	NTT コミュニケーション科学基礎研究所

(敬称略)

以降、参考情報

I. IEEE KANSAI SECTION BYLAWS

In all instances, the Institute of Electrical and Electronics Engineers (IEEE) Bylaws, Constitution, Policy and Procedures manual, and the Member and Geographic Activities (MGA) Operations Manual will prevail when there is a conflict between these documents and Section Bylaws.

ARTICLE I --- Name and Territory

Section 1

This organization shall be known as the Kansai Section of the IEEE.

Section 2

The territory of the Kansai Section, as approved by the MGA Board, includes the following: Osaka, Kyoto, Hyogo, Nara, Shiga, and Wakayama prefectures, JAPAN.

(The districts with the postal codes starting with 52 through 67 inclusive)

ARTICLE II --- Officers

Section 1

The elected officers of the Kansai Section shall be the 4 Executive officers: Chair, Vice Chair, Secretary and Treasurer. The offices of the Secretary and Treasurer may be combined.

Section 2

The terms of office of the elected officers shall be for 2 years.

Section 3

Terms of office will begin on January 1 but, in any case, the outgoing officers will continue until their successors are duly elected and take office. The consecutive period of service shall not exceed two years.

Section 4

Any vacancy occurring during the year shall be filled by a majority vote of the Section Executive Committee.

ARTICLE III --- Standing Committee

Section 1

The Standing Committees of the Section will be as follows:

- Membership Development Committee
- Nominations Committee
- Student Activities Committee
- Technical Program Committee
- Awards Committee
- Chapter Operations Committee

Section 2

The Chair of the Standing Committees will be appointed by the Section Chair with the approval of the Section Executive Committee, and their terms will expire on the end-of-term date of the Section Chair.

Section3

Each Committee Chair will appoint his/her Committee members, with the approval of the Section Executive Committee, and their terms will expire on the end-of-term date of the Committee Chairs'.

Section4

Duties of the Standing Committees will be as generally described in the IEEE Section Operations Guide.

ARTICLE IV --- Management

Section 1

The management of the Section shall be by the Section Executive Committee which shall consist of the elected officers, the Past Section Chair and the following:

Standing Committee Chairs,
representatives of Chapters,
representatives of Affinity Groups,
such other members appointed by the Section Executive Committee,
and such other members appointed by the Section Chairman.

The number of voting members elected must be at least one greater than those appointed.

Section 2

A majority of the Section Executive Committee shall constitute a quorum, provided that delegates elected by the Section membership are at least one greater in number than delegates appointed to the Committee.

Section 3

A majority of the Section Executive Committee present shall be necessary in the conduct of its business.

Section 4

Meetings of the Section Executive Committee ordinarily will be held at least twice a year and will be called by the Section Chair or by a request of three members of the Section Executive Committee.

Section 5

The fiscal year of the Section shall be the calendar year.

ARTICLE V --- Nomination and Election of Officers

Section 1

A nominating Committee consisting of three members, not then officers of the Section, shall be appointed by the Section Chair with the approval of the Section Executive Committee.

Section 2

The nominations of the Nominating Committee will be announced to the Section membership and, following this, a minimum of 28 days allowed for additional nominations by petition. To be valid, the petition must be signed by 2% or more voting membership.

Section 3

If only one nomination is made for each office, the election will be made at the Annual Meeting. If additional nominations are made, election will be by ballot, mailed to the membership with the vote counted by a Tellers Committee appointed by the Section Chair.

Section 4

The timetable for this procedure is as follows:

Appointment of Nominating Committee:	by August 31
Announcement of Nominations:	by September 30
Close nominations by petition:	by October 31
Hold election:	by November 30

Section 5

A plurality of the votes cast shall be necessary for election.

ARTICLE VI --- Business Meeting

Section 1

In order to transact business at a Section meeting, at least 3 members must be present to constitute a quorum.

ARTICLE VII --- Finances

Section 1

All expenditures of Section funds must be approved by Section Treasurer or Chair.

Section 2

Without prior authorization of the IEEE Executive Committee, Section funds can be used only for normal operations of the Section.

Section 3

The treasurer shall be authorized to draw funds as approved by the Section Executive Committee.

ARTICLE VIII --- Amendments

Section 1

Proposals for amendments to these Bylaws may originate in the Section Executive

Committee or by a petition signed by 20% or more voting members.

Section 2

Amendments to or revocation of these Bylaws shall be in accordance with the IEEE Bylaws, Policies, and the MGA Operations Manual.

IEEE 関西支部における MOU 締結判断手続きについて

IEEE Kansai Section COC

Chapter が IEEE 以外の団体が企画する事業に共催または協賛する場合、所属する Japan Council(JC)または Section の承認が必要(IEEE Policies)。この承認には、Chapter が IEEE Conference を共催する際に取り交わす MOU (Memorandum of Understanding)も含まれる。これは、IEEE Policy の 10.1.4 項の規定による。そこで、IEEE 東京支部の MOU 締結判断手続きを参考に、IEEE 関西支部における MOU 締結判断手続きについて、以下のとおり提案する。

1. 【審査依頼】提案元 Chapter から Kansai Section へ承認依頼を提出。(提出時点で、承認関連書類が Kansai Section COC へ(自動)転送されるよう運用)
1. 【Kansai Section COC における承認審査】承認審査を Kansai Section COC で実施し、Kansai Section 理事会へ審査結果を答申。審査は以下の点に留意する。
 - ① Financial Co-Sponsorship (FCS)と Technical Co-Sponsor (TCS)の別。
 - ① Sponsorship のための必要経費。
 - ② (FCS の場合)損出・余剰金発生時の処理など財務処理の妥当性。
(提案元 Chapter 側で事前に調整の上、申請頂くのが原則)
2. 【Joint Section における承認審査】上記 2 において、複数 Section による Joint Chapter からの依頼の場合には、Kansai Section COC から関係各 Section へ審査を依頼。
 - ① FCS については、関係全 Section からの承認回答をもって承認とする。
 - ② TCS については、あらかじめ設定した期限までに非承認回答がなければ承認として処理する。
3. 【COC からの答申に基づく Kansai Section の処理】答申内容に基づき、理事会で審議を行い、結果を事務局から Chapter に回答。
 - ① FCS の場合は、Kansai Section COC 発議により Kansai Section 理事会でメール審議を行い、承認後に Kansai Section Secretary が Chapter に結果を通知。
 - ② TCS の場合は、Kansai Section Secretary が承認して Chapter に通知、後日理事会で報告。

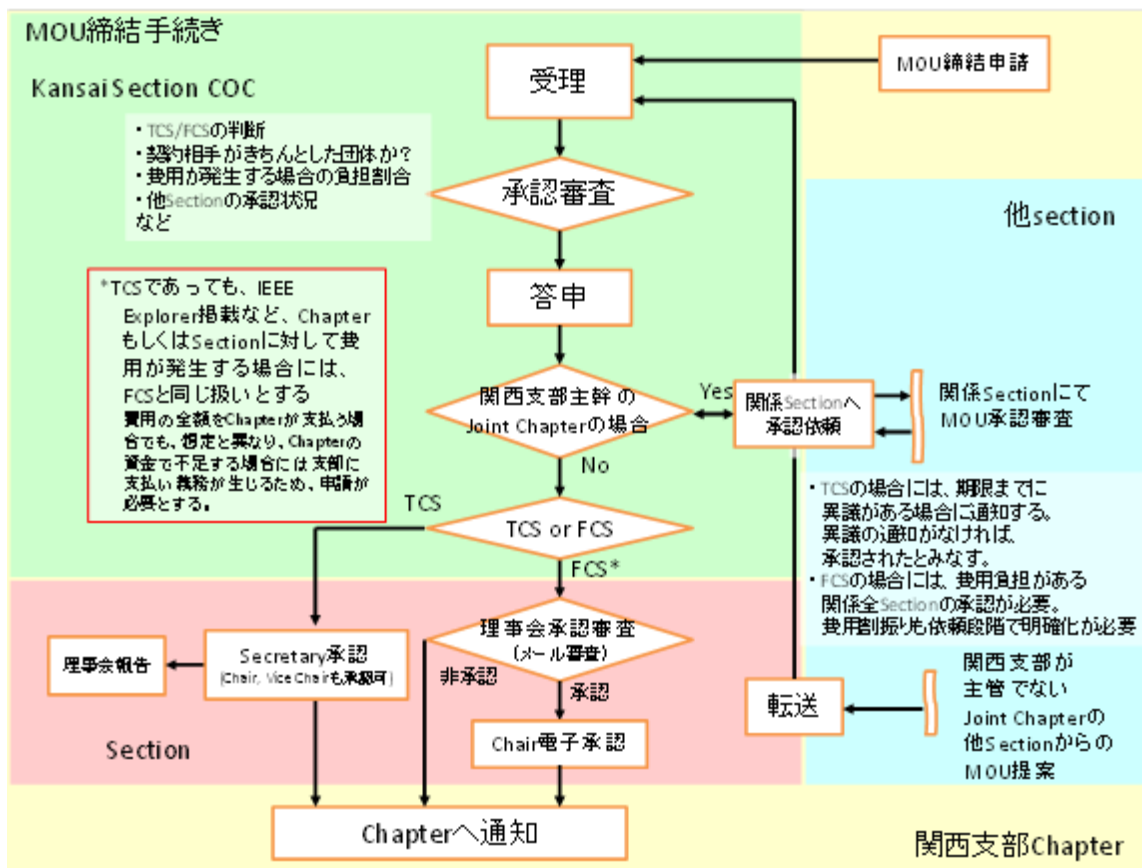
なお、以下の共催または協賛は MOU を必要としない。

1. 会議の共催または協賛には、IEEE の名称を出さない間接的協力。日本でいう「協賛」の多くがこれに該当。
2. (IEEE の名称を出す)が)財政規模の小さい(<25,000 USD)会議への協力。ただし、全ての責任は実施組織に求められる。特に、以下の点に注意。
 - ① IEEE の logo を使う場合には、IEEE policy に従って運営する。
 - ② 何等かの責任を負う場合には、責任の内容によっては MOU を締結することが好ましい

場合がある。判断に迷う場合には、支部もしくは JC-COC に問い合わせる。

共催/協賛 承認 に先だって、次のことを済ませておく。

1. 事前に相手先の組織を確認し、実態不明の組織との「共催」とならないことを確認。
1. Organizational Unit (OU) 間の協議で、Financial Co-sponsorship か Technical Co-sponsorship かを決定。
2. 関係する OU 間で責任分担を明確にして、MOU を作成。
3. 本規程は、施行/改定承認日から適用する。



2017年1月1日施行

IEEE 関西支部メダル授与規定

関西支部は、関西支部活動への積極的な参画を動機付けること、及び、Member Grade の昇格を動機付けることを目的とし、また、関西支部活動のアピールを行なうことにより関西支部の活性化に繋げることを目的として、IEEE 関西支部メダルを下記の者に授与する。

1. 関西支部に所属する新 Fellow で、Senior Member 昇格時に IEEE 関西支部メダルを贈呈されなかった者
2. 総会の前年の 1 年間の間に関西支部で新 Senior Member に昇格した者
3. 支部長が推薦し、理事会において承認された者

また、下記の希望者に対しては、支部長が推薦し、理事会において承認された上で、有償にて授与することができる。但し、その金額は IEEE 関西支部メダルを造幣局から購入した最新の購入単価とする。

1. 関西支部に所属する Fellow 又は Senior Member の希望者で、Fellow 昇格時又は Senior Member 昇格時において IEEE 関西支部メダルを贈呈されなかった者
2. 関西支部内部の運営に貢献のあった者
3. 上記以外の特別な理由で理事会の承認を得た者

本規程は、施行/改定承認日から適用する。

2008 年 9 月 17 日改定

2010 年 6 月 23 日改定

2012 年 1 月 4 日改定

2014 年 5 月 9 日改定

2017 年 1 月 1 日改定

IEEE 賞状用紙支給に関する規定について

IEEE Japan Council の Award 登録を行った Chapter、Affinity Group、Student Branch の表彰に対し、IEEE の賞状に台紙を支給することができる。

1. 手続きの流れについて

手続きは、

- ① IEEE Japan Council の Award 登録手続きに従い、登録を行う。
- ② IEEE Japan Council の Award 登録用紙(Excel)、賞状の必要枚数、賞状送付先住所氏名を添え、賞状授与申請のメールを関西支部事務局(sec-kansai@ieee-jp.org)に送付する。なお、申請は会合の2週間以上前とする。
メールタイトルは、「【IEEE 賞状授与申請】[組織名]必要に応じて備考」としていただきたい。
- ③ 内容を確認し、問題がなければ Award Committee より、所定の住所へ賞状を発送する。
- ④ 授与組織は会合開催後、IEEE 本部の Meeting Reporting System への登録を行った後に、関西支部事務局にメール送付する。

2. 適用日

- ・本規程は、施行/改定承認日から適用する。

2016 年 10 月 20 日施行

2017 年 1 月 1 日改定

IEEE 関西支部 Chapter 予算補てんに関する規定について

Chapter が活動を行う際に、関西支部からの Rebate、Society からの支援では活動費がまかなえない場合に、関西支部が Chapter の不足額の補てんについては、原則として以下のとおりとする。

1. 予算について

年初に Chapter 支援総額を予算化し、その予算の中で運用する。

なお、予算総額については、2月に開催される総会で承認をする。予算額は、その年の支部の活動、為替レートなどにより変動する可能性がある。

1年間の Chapter あたりの補てん額の上限は3万円とする。なお、予算総額に応じ、上限額は変わることがある。

2. 手続きの流れについて

手続きは、

- ① Chapter より、会合の名称、開催日、開催場所、開催趣旨、想定参加人数などを添え、現在の Chapter 資金、会合にかかる想定費用、支援内容を記載した支援申請のメールを関西支部 Chapter Operation Committee (COC) に送付する。なお、申請は会合の3週間以上前とする。
- ② COC は、規定の適合性をチェックし、適合している場合には、Treasurer および Section Chair の承認を得る。非適合の場合で、Chapter からの強い要請がある場合には、理事会にメールベースなどで承認の可否判断の依頼をする
- ③ Chapter に承認の可否を連絡する。
- ④ Chapter は会合開催後、IEEE 本部の Meeting Reporting System への登録を行った後に、各種領収書、請求書の PDF を関西支部事務局にメール送付するとともに、請求書の原本を関西支部事務局に送付する。
- ⑤ 関西支部は Meeting Reporting System の記載内容、領収書の内容、請求書の内容を確認後、Chapter に所定の金額を振り込む。

3. 補てん可能な内容について

① 講演者への謝礼

原則、IEEE 会員の講演者については、謝礼を遠慮していただいているが、謝礼をしなければ、有用な事業が実施できない場合に、支援を行う。

- i) Chapter が「主催」もしくは「共催」する事業に限定する
- ii) 謝礼額は、原則として、Chapter ごとの差が出ないように、1名1万円とする
- iii) 支援を受ける事業については、Chapter のホームページ等で Chapter 会員に周知する。
- iv) 想定参加人数は、10名以上であること。

② 役員会合に対する支援

Chapter の役員会合に対しては、Japan Council からは支援が受けられないが、役員
の力が Chapter 活動に大きく影響するため、役員会合に対しても一定の支援を行うこと
にする。ただし、飲食に対する支援は、1 回/年とする。

- i) 会合の参加者は 3 名以上
- ii) IEEE 本部の Meeting Report が作成されていること
- iii) 支援額は、飲食代の 1/2 以下とする
 - ・1 名あたりの支援額の上限を 2,000 円(税抜き)とする
 - ・会合の終了時間が 19 時以降の場合に支援を行う

4. 要件を満たさない場合で支出を行う場合

- ・事前に理事会の承認を得ること

5. 適用日

- ・本規程は、施行/改定承認日から適用する。

2016 年 9 月 23 日施行

2017 年 1 月 1 日改定

IEEE 関西支部 SB 支援に関する規定について

関西支部が Student Branch(SB)活動に対する支援については、原則として以下のとおりとする。

1. 予算について

- ① 1事業の支援額の上限は3万円とする。なお、旅費は除く。
- ② 支部の予算状況に応じて運用し、支援を保障するものではない。

2. 手続きの流れについて

手続きは、

- ① SBより、会合の名称、開催日、開催場所、開催趣旨、想定参加人数などを添え、支援内容を記載した支援申請のメールを関西支部 Student Activities Committee(SAC)に送付する。なお、申請は会合の3週間以上前とする。
- ② SACは、規定の適合性をチェックし、適合している場合には、Treasurer および Section Chair の承認を得る。非適合の場合で、SBからの強い要請がある場合には、理事会にメールベースなどで承認の可否判断の依頼をする
- ③ SBに承認の可否を連絡する。
- ④ SBは会合開催後、活動報告レポートの関西支部への提出及びSBのホームページへの活動報告の登録を行った後に、領収書のPDFを関西支部事務局にメール送付するとともに、領収書の原本を関西支部事務局に送付する。
なお、活動報告のレポートには、
 - ・開催日時、場所
 - ・参加人数および可能であれば、IEEE会員の参加人数
 - ・イベントの規模がわかる写真
 - ・副賞などの支援を行った場合には、受賞者の写真を掲載することが望ましい。SBのホームページには活動報告のレポートを掲載するなどに対応してもよい。
- ⑤ 関西支部は Meeting Reporting System の記載内容、領収書の内容、請求書の内容を確認後、SB口座に所定の金額を振り込む。

3. 支援内容について

SBの活動に対し、

- ① IEEE会合に付随して開催されること。
- ② IEEE本部の Meeting Report が作成されていること
- ③ SBのホームページに会合の報告が公開されること

の条件が満たされ、かつ、各項目記載の条件を満たす場合に、以下のような支援を行う

- ④ 会合に付随する飲食の支援について
以下の要件を満たす場合に、費用の1/2もしくは、2,000円(税抜)/人の低い額を支援する。
 - i) IEEE会合に参加している人数が5名以上
- ⑤ 会合に参加する際の旅費の支援について
以下の要件を満たす場合に、旅費交通費を支援する。
 - i) IEEE会合に参加している人数が5名以上

ii) 運営側、もしくは発表者として参加していること。単なる参加者には支援を行わない。

支援対象者の役割一覧を提出すること

⑥ 発表会などの副賞について

以下の要件を満たす場合に、副賞を支援する。

- i) IEEE 会合に参加している人数が 10 名以上
- ii) 副賞を受け取れる人数は参加者の 10%以下
- iii) 副賞は現金以外(図書券など)とする
- iv) 副賞の上限は 10,000 円/人とする

4. 要件を満たさない場合で支出を行う場合

- ・ 事前に理事会の承認を得ること

5. 適用日

- ・本規程は、施行/改定承認日から適用する。

2016 年 12 月 20 日施行

IEEE 関西支部理事会役員に関する規定について

IEEE 関西支部理事会及び支部長が指名する理事役員として、以下のメンバーを関西支部の理事役員とする。

1. Past 役員

Past Vice Chair, Past Secretary, Past Treasurer, Past Committee Chair についても、Chair もしくは理事会で指名した場合には、理事会役員とする。

2. Vice Chair, Secretary 及び Treasurer 立候補予定者

現行 Vice Chair, Secretary 及び Treasurer の残り任期が 1 年以下の期間に、Chair もしくは理事会で指名した場合に、次期 Vice Chair, Secretary 及び Treasurer 立候補予定者を理事会役員とする。なお、立候補予定者は、次期役員として立候補することを前提とする。また、候補予定者が役員となる時には、Past Vice Chair, Past Secretary, Past Treasurer は原則として役員を退任する。

3. 適用日

本規定は、2018 年 1 月 31 日から適用する。

2018 年 1 月 30 日理事会承認

参考

By Laws より

such other members appointed by the Section Executive Committee, and such other members appointed by the Section Chairman.

MGA Operation Manual/9.4 Sections/D. Section Management

1. The Section affairs shall be managed by an Executive Committee consisting of the elected officers. The number of voting members elected must be at least one greater than those appointed. Chapter and Affinity Group Chairs, as elected by their membership, are considered "elected" official, as is the Past Section Chair.

※その他の Past Vice Chair, Past Committee Chair 等については、記載がない

2. All Chapters and Affinity Groups in the Section shall have voting representation either individually or collectively on the Section Executive Committee, and the Subsection Chairs shall be ex-officio members with voting power.

3. Sections may have Student representation on the Executive Committee through appointment of one Student member and/or the Chair of the Section Student Activities Committee. It is recommended that every Section have a Section Student Representative (SSR), who is a voting member of the Section Committee, in Sections where there is at least one Student Branch.

4. A quorum is required for administrative meetings. A majority of the voting members the committee shall constitute a quorum. These meetings shall be conducted in accordance with Robert's Rules of Order (latest version) as the standard parliamentary authority.

5. Reasonable efforts should be made to notify all members of Section meetings and activities. Methods of communication could be, but are not limited to, email distributions (in keeping with IEEE email policies), postings on Section Web sites, social media venues, or hard copy distributions.

関西支部では、Chair, Vice Chair, Secretary, Treasurer, MDC Chair, NC Chair, SAC Chair, TPC Chair, AC Chair, COC Chair の 10 名 + LMAG Chair, WIE Chair, YP Chair, Past Chair の合計 14 名が選挙で選ばれた役員/理事。従って、役員/理事総数は 27 名以下。なお、Past Chair も退任する場合、Secretary と Treasurer が兼任の場合には、役員/理事会総数は 25 名以下。

基本的には、Elected 扱いの Past Chair が残っていれば、他のすべての役職の Past もしくは立候補予定者が入っても、必ず、選挙で選ばれた役員は過半数を超えるが、Past Chair の代わりに Chair 立候補予定者となってしまうと、どれかの役職の Past もしくは立候補予定者が理事会に入らない状態にならないければ、選挙で選ばれた役員数が過半数を超える状態にならないため、注意が必要。

2018 年 IEEE 関西支部連絡先
〒661-8661 兵庫県尼崎市塚口本町 8-1-1
三菱電機株式会社
先端技術総合研究所 内
IEEE 関西支部事務局
e-mail: sec-kansai@ieee-jp.org
<http://www.ieee-jp.org/section/kansai/>
<http://www.ieee-jp.org/section/kansai/english/>